



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆ 天神さまと私

公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長
上京区文化振興会会長
冷泉貴実子さん

◆ 京都文化博物館の特別展

北野天満宮 信仰と名宝 — 天神さんの源流 —
数々の神宝が伝える信仰の鼓動が鑑賞者を魅了

奉祝
天皇陛下御即位三十年

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築の中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与えています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居北野で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真 — 緑と黄のコントラストも美しい 史跡御土居の青もみじと山吹の花 —

かの天下人 豊臣秀吉公が天正19年（1591）に築いた御土居には、およそ350本のみじが植えられている。初夏には、新緑のみじが青々と色づき、御土居一帯は瑞々しい空間が広がる。またこの季節は御土居を流れる紙屋川沿いに、山吹の花が美しく咲き誇る。



御挨拶

奉祝 今上陛下御即位三十年 新元号「令和」



1200年間国都であった平安京の天門・北野の地に瞬く北極星と星の軌道 三光門掲額の「天満宮」は後西天皇御宸筆

先ずは謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。畏くも今上陛下におかせられましたは、御聖慮によりいよいよ御讓位あそばされ、新たな御代へと替わる佳節を迎えました。本年は、皇位継承の諸儀式が次々に執り行われます。また、去る四月一日には、新たな元号が「令和」と発表されました。安倍首相は、新元号に込められた意を「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」と、談話の中で説明されました。これは「人と人との和の中で、自国の歴史と伝統・自然を重んじながら、新たな技術や能力を受け入れ昇華させることにより新しい文化を育む」という、正に菅公が提唱された「和魂漢才」精神の中核を示すものであり、さらには、新元号の典拠が万葉集「梅花の歌三十二首」序文ということ、梅をこよなく愛された菅公と新元号との御縁を感じずにはおれません。

新元号発表が新帝践祚前になされてしまったことは誠に遺憾ですが、続く御大典の諸盛儀は、我国悠久の歴史と伝統に則り、万事恙なく厳かに執り行われます事を、国民齊しく衷心よりご祈念申し上げます。次第でございます。(十九頁仔細)

さて今年、京都市上京区が明治十二年(一八七九)に誕生してより百四十年の目出度き節目を迎えます。今春には、上京区政生誕百四十年の記念事業が多数行われ、改めて京都における上京区の歴史と伝統に注目が集まっています。

何かにつけ「文化」が叫ばれる昨今ですが、そもそも「日本文化」の礎は京都にあり、その中核を成してきた場所は、この「上京・西陣」と言っても過言ではありません。

京都は、延暦十三年(七九四)、四海平安の祈りを込めて桓武天皇が平安京を定められて以来、外来の文化を取り入れつつ、我国固有の文化と上手く融合させながら、国の中核となる文化を醸成し発展してきた地であります。

中でも上京は、平安京旧大極殿や現在の京都御所をはじめ、皇室縁の社寺仏閣、伝統的建造物などが現存し、あるいは茶道三千家があり、能・狂言が大きく発展した地のひとつでもあります。そして、その文化を支える西陣界隈に見る織物に代表される伝統産業、五花街最古の上七軒の遊興文化など、京都を代表する伝統文化が育まれた所であり、京都文化の中心的役割を担ってきた証であります。北野がお茶や菓子、お花と言った公家から庶民に至るまで親しまれた文化の発祥地と言える所以です。

当宮は、王城鎮護の神として平安京の天門の方角、北極星が瞬く聖地に奉祀され、学業成就や至誠の神、また厄除開運や技芸上達の神としても信仰されるとともに、上京文化の発信拠点として地域とともに発展してきました。室町期には、三代將軍足利義満公が境内に北野経王堂を建立し、「北野経会」と呼ばれる京洛最大の行事が行われました。また天正年間には、豊臣秀吉公が空前絶後の「北野大茶湯」を催し、慶長年間には、境内で出雲阿国が京都で初めて「ややこ踊り(歌舞伎踊り)」を奉納するなど、遊樂の地としても親しまれ、天神信仰のもとに京都文化の歴史は刻まれてきたと言えるでしょう。

今後とも、千有余年に亘り培われてきた日本文化の礎である天神信仰の発揚に努めるとともに、伝統文化普及に尽力して参る所存でございます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九

天神さまと私



公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長
上京区文化振興会会長

冷泉貴実子さん

今号は、藤原俊成・定家を祖とする冷泉家二十五代当主夫人で、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長、さらに上京区文化振興会の会長を務められている冷泉貴実子さんをお迎えし、橘重十九宮司との対談を掲載する。

(構成・編集部)

「日本の奇跡 上京大文化祭」を当宮で開催

宮司 本日は「曲水の宴」に冷泉さまご夫婦お揃いで出席賜り、誠にありがとうございます。「曲水の宴」も、菅公精神に照らし和漢朗詠という形で再興して本日で五回目となります。おかげさまで文化庁の方からも随分興味を示して頂いております。

冷泉 もう五回目なんですか。きょうは楽しみにして参りました。

宮司 冷泉さまのお屋敷も天満宮も今出川通に面した上京区にあります。その上京区が出来て今年百四十周年です。今の行政区の上京区とは少し違いますが、京都市より早く出来た上京区は、まさに京都の文化の中心であり、天神信仰もここから発信して全国に伝播していったということで大変誇りにしています。長くお住まいされ、文化振興会会長を務めておられる冷泉さまの思いをお聞かせ下さい。

冷泉 百四十周年の記念事業を天神さまの境内を拝借して、開催させて頂くことになり、催しの名を何にしよるか色々考えました。そして「日本の奇跡 上京大文化祭」(四月二十七、二十八の両日)としました。私、本当に日本の奇跡だと思います。宮司さんが仰る通り上京区というのは御所を中心が発展してきました。未だに周辺には御所にお出入りされていたお菓子屋さんとか、装束屋さんとかが残っておられ、みんなそれを誇りにしていらつしやるんですね。織物にしても西陣織という素晴らしいものが御所へ納める装束を元として出来たわけで、その技術は人間国宝的なものです。大げさにいいますと上京区は一町内に一人、人間国宝が住んでいるような町なんです。市に一人、そんな人がいたら自慢されるのに、ここはざらざらいはるんです。そして工芸作品や芸術作品を産み続けておられる。

宮司 そうです、正に日本文化が凝縮しているこの様な町は、どこにもありませんね。

冷泉 それだけではなく、お茶の家元があり、能や狂言の家元、お囃子とかそれに従事する人、千家十職…などなど日本が誇る文化が現代まで生き続けている町なんです。上京区文化振興会会長を引き受ける際に「四百年も同じとこに住んでるんやから是非に」ということで、承諾したんです。で、第一回の振興会の講演会を樂吉左衛門さんをお願いしたら、開口一番「うちは四百年間、同じ所に住んでいるんです」と言われ、二回目の武者小路千家の家元、千宗守さんも「うちは来てから四百年です」。もうびつくりです。四百年ぐらい続いている家、ざらざらあるんです。それが今も同じ家職をやっておられるというのはやっぱりすごいことです。で、上京の奇跡は日本の奇跡だと思っただけです。

冷泉貴実子さん略歴

昭和二十二年(一九四七) 冷泉家二十四代為任の長女として京都市に生まれる。昭和四十六年(一九七二) 京都女子大学文学部東洋史学科(日本史)卒業。昭和四十八年(一九七三) 同大学院修士課程修了(日本史専攻)

現在 公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫常務理事
公益財団法人 冷泉家時雨亭文庫事務局長
第二十五代為人夫人

冷泉家和歌会で冷泉流歌道を指導、各地でも和歌に關する講演などを行っている。

著書 「冷泉家の年中行事」(朝日新聞社・一九八七)、「冷泉家の歴史」(共著/朝日新聞社・一九八二)、「冷泉家の花貝合わせ」(共著/文化出版局・一九八二)、「新版」書肆フローラ・二〇〇七)、「京の八百年 冷泉家歌よみ」(京都新聞出版センター・二〇〇六)、「花もみぢ」(書肆フローラ・二〇一一)等

【冷泉家】

平安から鎌倉時代にかけての藤原俊成・定家の父子を祖とする藤原氏の家。代々和歌を家業として宮廷に仕えた。明治維新後も東京に移らず、京都の地で俊成・定家以来の文化財を今に伝える。昭和五十六年(一九八一) 財団法人冷泉家時雨亭文庫を設立し、伝来の文化財の保存に努めている。



上段右より 冷泉為人氏、冷泉貴実子氏
揃って参列された曲水の宴

上京区 140 周年記念事業「日本の奇跡 上京大文化祭」ポスター



宮司 大きな企業がないのも上京の特徴ですね。

冷泉 そうです。文化祭を開く際に際してお金集めに回り、それを痛感しました。大企業に代わってあるのが、この天神さん、相国寺、同志社大学が大きな柱です。天神さんと上京の伝統文化、現代に生きている文化祭を開く際に、会場をお引き受け頂き、これはもう成功間違いのないと思っています。

宮司 ありがとうございます。まさに上京は日本の伝統文化そのものだと日頃から思っています。

冷泉 今回、文化祭のことで、たびたび天満宮に伺うことになったんですけど、いつ来てもご参拝の方がいっぱいいて驚いています。これも御神徳だと思えますけど、どんな人がお参りされているんだろう、いつも思います。やはり全国からでしょうね。

宮司 そうです。やはり今、冷泉さまが仰った通り、文化の中心は京都、上京やということ、そこに天神さんが御鎮座するのです。

冷泉 ほんとに、上京と言えば、どこのお宅に行っても歴史の話が出て来るのでびっくりします。うちの家は天明の大火でどうしたとか、明治維新の時にどうした、こうしたとか、みなさん、ついこの間のことのように話されるんですから。

宮司 文化のことで言えば、菅公が文道大祖、風月本主と崇められてこれただけに、ずっと天神さんから文化を発信したいという願いを持っており、この会館を建てたんです。会館名も「文道会館」と、ずっと決まり、扁額の字も千玄室裏千家大宗匠のご揮毫を賜ったのです。

御所から聖廟法楽の題選びがお達しが来た冷泉家

冷泉 江戸から明治の初めにかけての第二十代当主の為理という方が書かれた日記が膨大に残っており、それを見ていたら聖廟法楽という言葉がよく出てくるんです。これって天神さんですよ。

宮司 そうです。当宮に間違いありません。

冷泉 その聖廟法楽を御所内でよくやったようです。何月何日にやるということになったら、うちの方に題を選ぶようにお達しが来て幾つかの題を出すわけです。そしたら天皇さんが、これがいいと思われるものに爪で印をつけられ、それが題になるみたいです。勅題です。で、公家衆たちがご法楽のお歌をお供えして披露したようです。江戸時代の法楽の和歌なども天満宮に残っていますか。

宮司 連歌も和歌もたくさん残っております。天皇さまの御歌も残っています。(※天和三年1168311月二十九日に霊元天皇が御所内で催された聖廟法楽百首の短冊がよく知られており、有力公家に交じて天皇自身の御歌もある)

冷泉 そうなんです。神仏習合だった明治までは、天神さん、もつと広がったんですね。

宮司 境内に宿坊が四十近くあり、広さは三・五倍ぐらいあったそうです。

冷泉 じゃあ、うちともつと近かったんですね。

宮司 そういうことになります。ところで、冷泉さまは公益財団法人冷泉家時雨亭文庫の常務理事・事務局長をなさっていますが、お屋敷は完全な形で残っている公家屋敷としては唯一で重文指定ですね。

冷泉 その通りです。



完全な形で現存する唯一の公家屋敷 冷泉家住宅



聖廟法楽和歌（短冊） 靈元天皇御製他 百枚のうち 北野天満宮蔵

宮司 文庫内に国宝が五件、重文が四十八件あるそうですが、残すのに大変なご苦労がおりにられたのでは？

冷泉 大変でした。今はいい時代で文化財といえば政党を問わず理解がありますが、戦後は復興が第一の時代です。七百五十坪ほどある屋敷も荒れ果てており、財産税のようなものに固定資産税、サラリーマンの父はボーンズの全部を税金に充てていました。先祖の俊成さんや定家さんなどがお書きになったものは、御文庫と呼んでいる蔵の一階に入っており、二階は神さんをお祀りしています。蔵自体が神さん扱いで、触ったら罰が当たるといふ教えがうちの家ではずっと守られてきたんです。ですから蔵だけは手が付けられなかったのですが、什器類とか他のものは色々外に出ていったんです。両親の苦労を見て育ちましたが、徴税官が土足で家に入って来て「税金が払えなかったら家を出て行って売ったらい！」と言われたのは相当悔しかったようです。

財団法人化で護られた冷泉家の貴重な文化財

宮司 文化財を守る、という意識はまったくなかったんです。

冷泉 ええ。父も退職し、将来を考え、相続税の問題が出てきました。払えるような金額とは違ったんです。ちょうど隣の同志社が拡張期で、「もう売らなアカンな」と父も言い出してたんです。京都府から「重文に指定したい」という提案がありました。税金の問題は解決しません。次に「財団法人にすれば残せる」という話になったんですが、それにも何億かのお金が必要で、追い詰められた時に、「どうせあかのやつたら、この際、蔵のもの全部見てもらおう」ということになり、学者の方の調査が入りました。朝日新聞の記者がパチパチ写真に撮り、数日後、本の正倉院みたいな大きな記事となり、以後マスコミで大きく取り上げられたんです。この話に感動された京セラさんが五千万円出すと言って下さり、それがきっかけで財団が出来たんです。まだ三十数年前のことです。

宮司 つい最近なんです。神社や寺の文化財には補助がついていたんですが、個人の文化財には目が向けられなかった時代ですね。「個人の文化財も護って下さい」と、冷泉さまがいろんな所で発言されていたのを私は知っており、今のような文化財保護の流れを作られたのは冷泉さまだと思います。それにしても、維新後、お公家衆がみんな東京へ行かれた際、冷泉さまはお残りになり、結果として空襲の被害を受けずに貴重な文化財が護られたわけですが、京都にお残りになった理由は？

冷泉 いろんな見方がありますが、一つは歌の家で政治のことはしなくてよかったですからだと思います。何と云ってもお弟子さんがおられたことは大きいでしょう。そして、先ほども申しましたように蔵が動かさなかったからだと思います。何しろ動かせば罰が当たりますので。

宮司 いよいよ文化庁が京都へ移転してきます。期待されることは？

冷泉 やはりたくさん予算を持って来て頂きたいですね。そして、東京にある時よりも大きな官庁に育つてもらわねばと思っています。

宮司 最後に天満宮とご縁についてお聞かせ下さい。

冷泉 受験の時にはよく拝ませて頂きました。牛も撫でさせて頂いたんですよ。それから、少し余談になりますが、うちの家で野良猫が子どもを四匹産み、生き残った一匹について私が歌会に託して貰い手を探したんです。すると、たまたま博多の方が手を挙げて下さったので、「飛び梅太」として名前をつけ、差し上げました。今、「梅太ちゃん」と呼ばれてかわいがられていますよ。（笑い）

宮司 当宮には何よりの話で締めて頂きました。（笑い）ありがとうございます。



晴天のもと、一の鳥居前石畳舗装完成式典を開催

この後、門川市長、寺田京都市会議長、宮司の三人が竣工の儀を執り行ない、林上京区長の発声で出席者全員が乾杯、神若会北野天神太鼓会による太鼓演奏で式典を締めくくった。

京都市の御前通石畳風舗装工事は三年計画《延長四百メートル》で行われており、今回の竣工は当宮の東側部分約二百メートルだけだが、すでに上七軒通の舗装は済んでおり、上七軒通―御前通―一の鳥居前広場へと続く門前町の歴史的な景観の保全が図られることとなった。



ご参列 上七軒歌舞会・上七軒匠会・北野門前菅公会・北野商店街振興組合・大將軍商店街振興組合・北野天満宮神若会北野天神太鼓会・北野祭保存会・北野神輿会（順不同）

一の鳥居前（今出川通沿い）広場と御前通で進められてきた石畳風の舗装整備が竣工し、二月二十三日、式典を行った。一の鳥居前は当宮、御前通は京都市により工事が行なわれてきたもので、官民が一体となって歴史的景観の保全・継承に取り組んだ初めてのケースとなった。

式典は、一の鳥居前広場に地域住民や商店街関係者ら約五十人が出席して行われた。門川京都市長が「上京区が出来て百四十年。石畳風の素晴らしい雰囲気となった」と挨拶すれば宮司も「御前通は天神さんに通じる道。こうした石畳風の舗装にして頂いたことに感謝したい」と述べた。



神若会北野天神太鼓会による清興



竣工の儀
左より 寺田一博京都市会議長・門川大作京都市長・橘宮司





(京都府立京都学・歴史館 京の記憶アーカイブより)

茶道を伝える三千家（表千家・裏千家・武者小路千家）は今も小川通周辺に居住し、今出川沿いには歌人藤原定家を祖とする和歌の冷泉家が古より変わらぬ佇む。最古の花街上七軒も、北野天満宮の門前に昔日の姿を残している。西陣織などの工芸、日本料理や京菓子、千家十職に代表されるような楽焼など手工芸も守り伝えられてきた。ここは、平安の古から現在まで続く、数々の芸術が開き育まれてきた街でもあった。



図2 大正時代の西陣（京都府立京都学・歴史館 京の記憶アーカイブより）



上京区の歴史 と北野天満宮

北野文化研究所室長

松原 史

京都の街はその昔より、二条を境に北は上京、南は下京と呼ばれてきた。平安京の昔より御所を中心に豊かな文化が息づく街。北野天満宮の建つこの地について、改めてご紹介したい。

上京概観

京都市のほぼ中心に位置し、今出川通の南北にわたり、東は鴨川、西は紙屋川に挟まれた地域を現在上京区と称している。（図1）御所を中心として古くから文化が醸成されてきた土地柄であり、相国寺、北野天満宮など多くの社寺・歴史的建造物を有し、西陣を中心として匠の町・日本の近代化を支えた産業の地でもあった。（図2）古くから上京と呼ばれてきたが、行政地区としては、明治十二年（一八七九）に郡区町村編成法によって「上京区」が誕生し、今年で百四十周年を迎える。現在は、八万五千人余りの人々が暮らし、多くの大学や文化施設を擁する文教地区でもある。

文化のまち

上京の街を見渡せば、平安京の昔を訪ね、天下人の面影を感じ、もの作りの源流をたどる事が容易にできるほど、この地では豊かで重層的な歴史が刻まれてきた。平安時代の大内裏、室町時代の花の御所、桃山時代の聚楽第など、時代時代の政治の中心であり、その遺跡もここ上京に集中している。

芸術家、尾形光琳や本阿弥光悦がかつて暮らしたのも、また豊臣秀吉公と千利休らにより北野大茶湯が行われたのも、上京。（図3）歌舞伎の祖、出雲の阿国が初めて常設の舞台に立ち踊ったのも上京、北野の地であった。（図4）



図1 現在の京上区



図3 北野大茶湯図 浮田一憲



図5 明治35年千年祭の折の北野線

北野と西陣 — 文化の古今 —

平安京の天門に位置する北野天満宮は、古くより信仰の地であり、遊行の地でもあった。多くの人が集まる地は自然栄える。人々が集う様子は京名所図屏風・北野隻(図4)からもうかがうことができる。文芸の神としても信仰を集めた天神さんらしく、此処は文化の中心地であり、上京の西側にあって西陣の産業を支える役割も果たして来た。応仁の乱で西軍の山名持豊が陣を張ったことで「西陣」という名がついたことは有名であるが、それ以前も御所の織物を預かる大舎人らが居住し、やがて日本の近代化をも支える一大織物産地へと発展していく。

北野天満宮で行われていた勅祭北野祭には独特の三年一請会さんねんいっしょうえと呼ばれる慣わしがあった。それは三年に一度御神輿のしつらえを修繕または新調するというもの。神に捧げるお道具は、官費により匠の技術の粋を極めて製作された。三年に一度、手間を惜しまぬ製作に向き合う機会が与えられたということは、西陣の技術の向上に大きな影響を与えたといえるだろう。また中世北野の神人には麴の専売権が与えられ、古くから酒造業の発達した地であった。北野天満宮の周りには近年まで、酒蔵が多かったのもその名残。上七軒をはじめとする、北野の参詣者と切っても切れない門前町が形成されてきた。

明治には、北野天満宮門前まで市電が敷かれ大いに賑わった。(図5)明治三十三年に開通したこの北野線は、明治三十五年に行われた北野天満宮の一千大萬燈祭への人出を当て込んでつくられたものともいわれる。

北野天満宮では現在も、西陣織の祭り飾りが使われ、在洛四家元二宗匠による献茶祭が行われるなど、古の文化が脈々と継承されている。今出川通を中心とするこの地は、京都ひいては日本の文化・産業の礎を築いた地であるとともに、今も文化を育み続けている。

《主要参考文献》

- ・京都北ロータリークラブ『上京地域を中心とした歴史的文化財と人物遺跡』一九七八年
- ・おこしやす上京編集委員会
- ・『おこしやす上京千二百年の歴史と文化・産業を培ってきたまち』一九九九年
- ・上京区百二十年記念事業委員会『上京区百二十年記念誌』二〇〇〇年



図4 京名所図屏風・北野隻 (サントリー美術館)





京都文化博物館の特別展

北野天満宮 信仰と名宝

― 天神さんの源流 ―

数々の御神宝が伝える信仰の鼓動が鑑賞者を魅了



北野天満宮 信仰と名宝―天神さんの源流―開会式

当宮に伝わる数々の御神宝などを通じて、天神信仰の複雑・多様な信仰世界を紐解く特別展「北野天満宮 信仰と名宝―天神さんの源流―」が、二月二十三日から京都市中京区の京都文化博物館で始まり、初日から多くの鑑賞者を魅了した。

この特別展は、京都文化博物館三十周年を記念し、同館と京都新聞などが主催して開かれた。会期は四月十四日までだが、前期展（三月十七日まで）として八十四点、後期展（三月十九日から四月十四日まで）として七十五点が展示された。展示品のうち国宝は二点、重要文化財は十七点を数えた。

展示は①菅原道真―人として②北野天満宮創建③北野にみる神と仏④室町幕府と北野天満宮⑤祭礼と神事⑥天満宮改造―豊臣家と北野天満宮⑦神と結ぶ奉納品の数々、という七つのテーマに分類。人としてこの世に出現された菅公が薨去後、神となつて北野に祀られ、多様な信仰に広がっていく過程が掴める分かり易い構成となった。

展示品は、当宮所蔵の宝物を中心に他の社寺や個人蔵の美術工芸品、歴史資料も加え、当宮千百年の歴史と信仰の流れをたどる展覧会となった。会場の一角では当宮の祭事などを一年間にわたつ



国宝 北野天神縁起絵巻（承久本）ほか多数の宝物を展示



展示会場





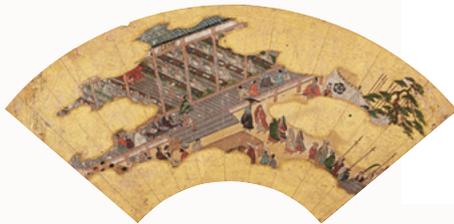
東帯天神坐像 桃山時代 東向観音寺



十一面観音立像
平安時代 曼殊院門跡



御神号の数々（左から 後水尾天皇宸翰・後陽成天皇宸翰
・伝 後奈良天皇宸翰・伝 称光天皇宸翰）



北野経王堂図扇面 室町時代 個人蔵



北野社頭図屏風 細見本 江戸時代 細見美術館蔵

て記録した映像も流された。

宮司講演

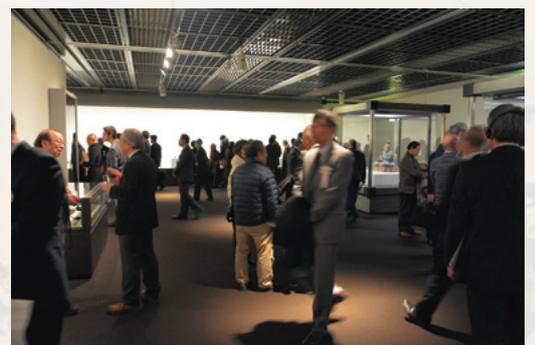
初日の二十三日には橘宮司の講演も行われた。宮司は、天神信仰の成り立ちから始まり多彩な信仰として広がっていった過程や、展示されている『北野天神縁起絵巻（承久本）』（国宝）や御本殿の内陣から偶然発見された鬼神像（重文）などにも触れながら「全国八万社の神社のうち一度人間としてこの世に出られた方が神として祀られ、全国に一万二千社も広がったのは天神さんだけ。天神信仰は日本文化の礎を築き、和魂漢才を始め菅公が提唱された様々な精神は日本人の精神的な礎ともなった」と言及。私が一番好きな歌だとして「心だに誠の道にかなひなば祈らずとも神や守らむ」と菅公作の和歌を紹介した。

盛大に行われた開会式

特別展の開会に先立って二十二日夕、別館において約三百人が出席して開会式が行われた。山内修一副知事が「全国一万数千社の総本社である北野天満宮の名宝の数々を展示して、京都の持つ文化力を発信したい」。また山田啓二京都文化博物館館長も「文博が出来て三十年という節目の年に、北野天満宮と文博の協同研究の成果である展覧会を開くことが出来てうれしい」と、それぞれ挨拶した。また、宮司も「この展覧会は、天満宮の源流をたどるもので、立派な展覧会を開くために協力して頂いた各方面に御礼を申しあげたい」と挨拶した。この後、関係者によるテープカットがあり、開幕に先立って参加者のための内覧会が行われた。



満席となった講演会場



内覧会の様子



菅公の祥月命日 厳かに梅花祭を齋行 古例により皇后陛下の御代拝参向

— 梅花見頃の中、厄除信仰の参拝者多し —



皇后陛下御代拝参向による御拝礼（宮内庁京都事務所長）



先ず御神前に梅花を供す

〈菅公御歌〉
東風吹かば 匂ひおこせよ梅の花
主なしとて 春を忘るな

こよなく梅の花を愛された菅公の祥月命日に当たる二月二十五日、御本殿において午前十時から梅花祭を厳かに齋行し、御遺徳を偲んだ。

菅公は、延喜三年（九〇三）二月二十五日無実の罪によって左降された大宰府で薨去される。かつては「菜種御供」と称する特別な神饌を奉饌し齋行した梅花祭。鳥羽天皇の天仁二年（一一〇九）二月二十五日に執行された記録が残り、約九百年の伝統を誇る当宮の祭典の中でも最も重要な神事の一つである。

特殊神饌「梅花御供」「紙立」が奉饌された御神前では、三種の祝詞が宮司らによって奏上され、貞明皇后行啓の古例に倣い今年も皇后陛下の御代拝として宮内庁京都事務所長が参向され

御拝礼された。

このように皇后陛下の御代拝が参向されて礼拝されるのは全国的にみても極めて珍しい祭祀の形といわれる。

神職は冠に菜の花を挿して奉仕するが、これはかつて「菜種御供」と称していたことの名残とされる。

この日の京都の最高気温は十八度（平年十・六度）と、本格的な春を思わせるようなポカポカ陽気。境内にある五十種、約千五百本の梅は満開。梅を愛でる縁日の参拝者に加え厄除祈願の参拝者も多く、境内は終日大賑わいをみせた。

特殊神饌「梅花御供」「紙立」
西ノ京の神人の末裔の調製により奉饌



梅花

潔斎した会員が浄火を用いて調製したものを。

また、同時に調製された「紙立」は、厄除玄米の入った仙花紙の容器に紅白の梅の小枝を挿したもので、男女の四十二・三十三の厄年にちなみ、白梅四十二組と紅梅を挿した三十三組の紙立が奉饌された。

なお、この紙立の調製に用いた玄米は、古くからご飯に炊き込んで食すと災難・厄除・無病息災であるといえられ、当宮では「厄除玄米」として参拝者に授与しているが、梅花祭に奉饌されることから、この日は厄除信仰の参拝者が多いのも特徴とされる。



「奉幣の儀」七保会神人 吉積 徹宰領

この日、御神前に奉饌された「梅花御供」「紙立」の二種の特殊神饌は、西ノ京の当宮神人の末裔で組織する「七保会」の会員によって毎年調製されており、梅花祭が特別な祭典であることとを物語る。とくに「梅花御供」は、四斗の米を蒸して大小二個の台に盛った「大飯」「小飯」と称される二つからなるが、これは梅花祭前日の二十四日、精進



特殊神饌「梅花御供」



特殊神饌「大飯 小飯」を供す



特殊神饌「紙立」を供す

華やかに野点大茶湯
芳香放つ梅花の下で優雅に一服

梅花祭の日の呼び物、「梅花祭野点大茶湯」が紅梅殿前の庭で華やかに催され、参拝者は上七軒歌舞会の芸舞妓のお点前で優雅な一服を楽しんだ。

豊臣秀吉公が天正十五年（一五八七）、当宮境内で北野大茶湯を催したことにちなみ、昭和二十七年の千五十年大萬燈祭から毎年この日に行っている茶文化ゆかりの当宮ならではの行事。上七軒歌舞会の芸舞妓・女将らが総出で奉仕に当たったが、一度に席に座れる人数は限られており、今年も順番を待つ人で長蛇の列ができた。

満開の梅の花が芳香を放つ中、美しい着物姿の芸舞妓の奉仕で一服を楽しむ参拝者は至福のひと時を過ごしていた。



大賑わいの茶席



見頃の梅花の中、華やかにお点前



上七軒歌舞会協賛による野点大茶湯

青空広がり、満開の梅花咲き匂う——春の「曲水の宴」齋行
 多くの参拝者鑑賞し”平安の雅“堪能



春の曲水の宴 奉仕者

春の「曲水の宴」を三月九日、紅梅殿船出の庭で催した。これまで秋の文化の日に三回齋行し、春としては昨年について二回目。
 この日の京都は青空が一杯に広がり、最高気温も十五・八度と平年を三・五度も上回る好天となった。境内の梅もちょうど見ごろ。馥郁たる梅の香に包まれる中での催しとなり、多くの参拝者が鑑賞し、”平安の雅“を堪能した。

古来三月三日の節会に
 行われた曲水の宴

曲水の宴は、庭園に作られた小川に酒を入れた杯を流し、それを取って飲むと共に、題に即した詩を賦すという宴会である。古来三月三日の節会に行われた。

これは、古代中国で行われていた上巳の祓（毎年三月最初の巳の日に、水辺で体を清める行事）に由来し、杯を流すこと（流觴）と賦詩を伴って、宴の形式として整えられ、日本に伝えられた。なお中国由来の行事であるため、日本に伝えられたものを通例とし、当宮の曲水の宴においても和漢朗詠の姿で齋行している。

最も有名な曲水の宴は、王羲之『蘭亭序』が生み出された永和九年（三五三）に行われたもので、こうしたイメージも含めて伝えられたのか、日本では文人の風雅な行事として尊ばれた。

菅公と「曲水の宴」の関わり

日本における「曲水の宴」は、奈良・平安時代に宮中で盛んに行なわれた。宇多天皇に重用され



白拍子奉納（白拍子研究所 永田成望氏・木村 溪氏・伊東 桃氏）



ご参列（左から、冷泉為弘氏・冷泉貴実子氏・冷泉為人氏）



茂山逸平氏・片木希依氏



山田啓二氏・阪口順子氏



参進する詠者



吉岡英晃氏・小野田磨柚氏



臈谷 壽氏・熊谷優希氏

この日の進行は、これまでと同様、有斐斎弘道館館長の濱崎加奈子氏の司会・解説によって行われた。杯が流される前には、紅梅殿上で菅公作の漢詩『花時天似醉』^{はなときあまにそひやく}が、雅楽の音色に合わせて朗詠され、白拍子も菅公作の和歌を詠じながら優雅な舞いを披露した。

この後「曲水の宴」に移り、小川沿いに着座した平安装束の詠者八人が男女二人ずつ一組になり、流れてきた杯を口に当て、男性が漢詩、女性が和歌を筆でしたためた。

兼題は「神」「帝」「梅」「恋」で、出来た作品は谷口匡京都教育大学教授と植木朝子同志社大学副学長によって披講され、解説が加えられた。

なお、この日漢詩を詠まれた詩人は山田啓二氏、臈谷壽氏、茂山逸平氏、吉岡英晃氏。和歌を詠まれた歌人は、阪口順子氏、熊谷優希氏、片木希依氏、小野田磨柚氏。

男性は漢詩、
女性は和歌を筆でしたためる

北野ならではの趣で齋行する
「曲水の宴」

菅公と強い縁のある「曲水の宴」の再興は、当宮にとって長年の念願であり、紅梅殿船出の庭が完成したことに伴って宴の復興委員会や実行員会を結成して様々な検討を加え、平成二十八年秋、約千百年ぶりに再興にこぎつけた。和魂漢才を尊ばれた菅公の精神に学び、漢詩と和歌を賦す和漢朗詠という当宮独自の仕様での齋行となった。

た菅公は、記録に残っているだけでも天皇主宰の宴に四回招かれ、その際につくられた詩文も幾つか残されている。



藤村正則氏・御手洗靖大氏（付物 京都雅楽会）



童子（左から、梅原花歩さん・北村柊奈さん・森田桜さん・田村みそのさん・岡部吉希くん）



曲水の宴で披露された漢詩と和歌

一番 神

詩人 山田 啓二（前京都府知事・京都文化博物館 館長）

神 山田啓二
知州十六春
災異一何ぞ頻なる
誰か念はん民志無きは
天神 使臣を佑くと

知州十六春
災異一に何ぞ頻なる
誰か念はん民志無きは
天神 使臣を佑くと

*十六年間務めた知事時代に思いを馳せ、何度も災害等に見舞われながらも府民が平安であったのは天神の加護があったためだろうと詠んだ詩。

歌人 阪口 順子（京大和 女将）

神
我に見守る神は
命をいただいて、それを新たな命につないでゆくという日々の営みを見守る神に感謝して詠んだお歌。

*老舗料亭京大和を営む歌人が、命をいただいて、それを新たな命につないでゆくという日々の営みを見守る神に感謝して詠んだお歌。

三番 梅

詩人 茂山 逸平（狂言師）

梅 茂山逸平
撒豆鳴瓢悪鬼摧
福神莞爾欲除災
児孫伝愛追儺式
天満宮中開白梅

豆を撒き瓢を鳴らして悪鬼を摧き
福神 莞爾として災ひを除かんと欲す
児孫 伝へ受く追儺式
天満宮中 白梅開く

*毎年二月三日の節分の日に、追儺狂言を奉納して下さっている詩人が、高祖父が作ったその伝統を引き継ぐ喜びと北野天満宮で花開く梅の様子を詠んだ詩。

歌人 片木 希依（ピアノリスト）

梅 片木希依
厳冬に梅は綻び微笑みを
我に投げかけとも春待つ

*梅の花のほころびは、冬をくぐり抜けた微笑みのような暖かみを感じさせてくれる。その花に共感を寄せ、一緒に春の訪れを待ち、喜ぼうとする心を詠んだお歌。

二番 帝

詩人 隴谷 壽（同志社女子大学名誉教授）

帝 隴谷壽
讃州才識難阿衡
諫正投書博陸驚
得帝信任権貴怨
謫居西海派懐京

讃州にて方に識る 阿衡を難ずるを
諫正 書を投じて博陸驚く
帝の信任を得るも 権貴は怨み
西海に謫居し 涙して京を懐ふ

*歴史学者である詩人が、菅原道真公が讃岐守だった時代におこった阿衡事件と、その後の左遷という史実を題材として詠んだ詩。博陸は関白藤原基経、帝は宇多天皇のこと。

歌人 熊谷 優希（株式会社熊谷次 取締役）

帝 熊谷優希
春風のいよ輝き、新帝の
草のお姿 柔らに包むゆい

*今春迎える御代替わりに際し、新帝の御即位を、春の輝く日差しと新帝のお姿をかさね、春ぐ気持ちを含めて詠んだお歌。

四番 恋

詩人 吉岡 英晃（京都大学四年生）

恋 吉岡英晃
梅花初発映春雲
鶯語問閑最早聞
微雨揺楊君欲去
我歌折柳思紛紛

梅花初めて発きて 春雲に映じ
鶯語 問閑として最も早く聞く
微雨 楊を揺かして君去らんと欲し
我 折柳を歌へば思ひ紛紛

*早春の風景から季節の移り変わりを表し、その情景と別れの場面を重ねあわせ、切ない心のうちを詠んだ恋の詩。折柳は送別の曲の名。

歌人 小野田 磨柚（京都教育大学修士課程二年生）

恋 小野田磨柚
宇治川の霞に落ちる柴舟り
影はほの見ゆ公達の恋まゆ

*新古今和歌集 寂蓮法師の歌「暮れてゆく春の湊は知らねども霞に落つる宇治の柴舟」に着想を得て、古典文学と歌人のルーツである宇治に思いを馳せつつ恋を詠んだお歌。

梅苑 公開

ライトアップ二年目、高まる人気 揺らめく八百灯のろうそく、幻想感溢れる梅花の美 整備整った枯山水風の小庭園も観梅者に好評

今年の梅苑の公開は二月八日から始まった。梅の花は菅公ゆかりであり、梅の木は境内に約五十種、千五百本ある。梅苑にはその多くが植えられ、京都市内では有数の梅の名所となっている。見ごろになるにつれ、連日多くの参拝者が入苑し、大賑わいとなった。



整備された文道会館前枯山水風庭園

昨年梅苑の折にはまだちらほら咲きの状態であったが、今年は暖冬で梅の開花が早く、二月下旬には早くも見ごろとなり、馥郁たる梅の香が梅苑に漂った。連日多くの参拝者が入苑し、白や赤、桃色などの花を美しく咲かせた梅を見上げ、「きれい」「いい香り」などと囁きながら観梅を楽しむ人があちこちで見られた。

文道会館南側のウッドデッキ前には、今年枯山水風の小庭を設けたが、これもなかなか好評で、デッキで休憩をしながら観梅する人がたくさん見られた。

梅苑の入苑時間は午後四時までだが、「もう少し遅い時間まで開いてほしい」という他府県からの参拝者の要望を受け、昨年からは毎週末の金・土・日に限りライトアップして公開したところ大好評だったため、今年も二月二十二日から週末三日間の夜間入苑を実施した。

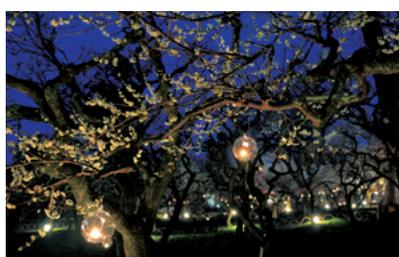
「夜の観梅」は、LEDライトとかがり火、さらに昨年は五百灯だったろうそくを八百灯に増やした。このため揺らめくろうそくの灯が醸し出す幻想的な雰囲気は一層強まり「今、天神さんの境内の中にいるんだ」という気持ち改めて思い起させてくれました」と感動の様子で話す人もいた。



梅苑と文道会館



ライトアップされた境内の様子



ろうそくに照らされた幻想的な梅苑



連日大勢の観梅者で賑わう梅苑

天正の「北野大茶湯」ゆかりの 当宮で和菓子の花咲く 「京菓子コレクション」開催

梅の香漂い、老舗の味に満足の来場者



当宮に残る「北野大茶湯」
ゆかりの菓子型



北野大茶湯図（浮田一蕙） 北野天満宮蔵



茶文化の根付く当宮で、京菓子の歴史・文化や職人の技に触れて京菓子の魅力を味わおうという「京菓子コレクション」が三月二・三日の二日間文道会館で開かれ、両日とも多くの来場者が訪れ、賑わいを見せた。この催しは、京の菓子文化が「京都をつなぐ無形文化遺産」に選定されたことを記念し昨年初めて開催され、今年が二回目。

当宮は、豊臣秀吉公が天正十五年（一五八七）十月一日に開いた空前絶後の大茶会「北野大茶湯」ゆかりの地である。その縁で毎年十二月一日、在洛の四家元二宗匠の奉仕により御本殿で献茶祭を斎行し、祭典後は境内の各所で茶席も設けられる。茶会・茶席といえば和菓子は付き物であり、毎年の献茶祭の折にも京都の老舗和菓子店で組織する「菓匠会」が協賛して飾り菓子の展示会を行なっている。

こうした経緯もあって、京都市・京都市観光協会と当宮が主催し、京都市茶業組合の協力の下、この「京菓子コレクション」を開催している。

北野天満宮とお菓子・お茶の歴史や文化を紹介、 和菓子製作実演や玉露淹れ方講座開催

地下一階の展示会場には、北野天満宮とお菓子・お茶の歴史や文化を紹介する展示や北野大茶湯ゆかりの記録や高札などの宝物を展覧。また菓子木型や見本帳、菓子道具類も展示、お菓子の雛飾りを始めとする飾り菓子の展示スペースも設けられ、多くの人が見入っていた。

また、亀屋良長（二日）、俵屋吉富（三日）による京菓子の製作実演や京都市茶業組合による玉露の淹れ方体験も大盛況だった。



北野天満宮とお菓子・お茶の歴史を紹介



和菓子の製作実演（亀屋良長・俵屋吉富）



盛況だった玉露の淹れ方体験（京都市茶業組合）



終日長蛇の列だった受付



トークイベント「和菓子のある暮らし」 かが沈にのりこさん・椿屋さん・西川葵さん(2日ゲスト)、中山福太郎さん(3日ゲスト)



飾り菓子の展示コーナー



京菓子の木型や史料を展示

京菓子で一服コーナー

一階に設けられた老松・亀屋良長・笹屋伊織・末富・俵屋吉富・鶴屋吉信・二條若狭屋といった老舗和菓子店が、「京菓子コレクション」のために造った限定の和菓子を味わいながら抹茶を頂くコーナーは大盛況。とくに二日は好天で参拝者も多く、盛りの梅苑の梅を観ながら和菓子に舌鼓を打ち、一服を楽しむ人で順番待ちができるほどの混みようを見せた。

あんこ好きの女性レポーターらによるトークイベント(両日とも)や、京都三大学合同交響楽団(京都府立大・京都府立医科大・京都工芸繊維大)の学生五人による木管アンサンブルの演奏(三日)もあり、催しを盛り上げた。

太鼓演奏で来場者を歓迎

二日午後三時と午後六時からは、京菓子コレクション来場者を歓迎する神若会北野天神太鼓会の太鼓演奏が梅苑茶店前で行われた。茶店前は来場者や観梅の参拝者で一杯となり、多くの人が威勢のよい演奏に聴き入った。

来場者の感想

来場した人からは「和菓子の味と咲き誇る梅。とてもよいひと時でした」「梅の香りと美味しい和菓子。幸せなひと時でした」「老舗の味を素晴らしい梅と共に味わうことができ、幸せです。」などといった感想が寄せられた。



文道会館ウッドデッキから観る見頃の梅苑



和菓子二種と抹茶



北野大茶湯ゆかりの宝物を多数展示(文道会館地下展示室)



神若会北野天神太鼓会 梅太鼓奉納



満員の京菓子一服会場で演奏する京都三大学交響楽団 木管アンサンブル

「温故創新・西陣」月間

文道会館でキックオフイベント開く



200名を超える参加者 西陣めぐり「温故創新・西陣」イベント

京都市による西陣の活性化を目指す「温故創新・西陣」月間（三月二十五日まで）の初日に当たる二月二十三日、文道会館でキックオフイベントが開かれ、約二百人の市民が講演などに耳を傾けた。

書道家の川尾朋子さんが壇上で「温故創新 西陣」と書き、開会。門川京都市長、寺田市会議長、宮司の三人が「西陣の魅力を存分に知らせ、発信しよう」と、挨拶した。

井上満郎京都市歴史資料館館長が「西陣と応仁の乱―乱が破壊したもの、生み出したものが破壊したもの、その後、能や狂言、茶華道といった文化の花が咲き、町衆が町を守る役を担つた。そうした京都力の原点となるのが西陣である」と指摘した。

温故創新・西陣

この後、高田光雄京都美術工芸大教授ら三氏が「西陣の暮らしと魅力」をテーマに語り合った。



基調講演 井上満郎氏（京都市歴史資料館館長）



書道家 川尾朋子氏によるオープニングアクト

親子で体験！

文道会館で親子が京の伝統芸能を体験

上七軒の芸舞妓さんから踊りを習い、北野天神太鼓会の指導で和太鼓にも挑戦



神若会北野天神太鼓会による和太鼓体験

「親子で体験！京の伝統芸能」（京都市主催）が二月十六日、文道会館で開かれ、約六十人の親子が上七軒歌舞会の芸舞妓さんに日本舞踊を習い、神若会北野天神太鼓会の指導で勇壮な和太鼓演奏にも挑戦した。

京都に伝わる様々な無形文化遺産を守り、未来に引き継ぐ制度を作って伝統文化の振興に務めている京都市が、次世代を担う子どもたちに親と共に伝統文化を体験してもらい、その歴史や魅力を学んでもらおうと開いた。

まず「花街の文化の体験」で、京都の花街ではもともと古い歴史を持つ上七軒の成り立ちについて説明を受けた後、上七軒歌舞会の芸舞妓さんが地方さんの弾く三味線にのって日本舞踊を披露。この後、芸舞妓さんの指導で『祇園小唄』の一節一節について手や指、足の動かし方などを習い、最後に全員が通して踊り、見守る親たちの拍手を浴びた。また、踊りを始める時には、三味線の地方さんに「おたの申します」と頭を下げる花街の礼儀の一端なども学んだ。

引き続き、北野天神太鼓会の指導で和太鼓体験が行なわれた。まず会員が『勇駒』など三曲を演奏した後、バチの握り方や足の開き方などを教え、実際に太鼓を叩いて音を出す稽古をした。そして初心者向けの曲『感動』を少しずつ練習し、最後は全員揃って一曲通して演奏。保護者からは大きな拍手が送られた。感想を聞かれた子どもたちの反応は、「難しかった」「やさしかった」が相半ばしていた。また、「太鼓は礼に始まり礼に終わる」と、演奏の前後にお辞儀をすることの大切さも学んだ。



上七軒の芸舞妓さんの踊りを見学



子ども達と一緒に踊りを体験

新元号は 令和

— 通底する菅公精神 —

五月一日、新帝陛下が御即位遊ばされるに先立ち、去る四月一日、「平成」に替わる新しい元号が「令和」と発表された。典拠となった万葉集は、現存する我が国最古の和歌集。天皇をはじめ皇族や貴族、防人や庶民に至るまで、幅広い人々の歌を収め、当時の人々の暮らしぶりや、恋や悲しみといった繊細な心情の、その息づかいまでも感じ得る、我が国が誇る象徴的文学で、国民歌集とも称される国書である。

万葉集が編まれたのは奈良時代。平城京を中心に、遣唐使によってもたらされた大陸文化が積極的に採り入れられ、天平文化が開いた時代である。当時の貴族や学者たちは、新たな知識や情報を我が国固有の文化に上手く取り込み、国家の政務や文学に注ぎ込んだ。後に菅公が提唱する「和魂漢才」の原型が生み出される、開かれた時代であった。

新元号「令和」の二字は、万葉集巻五に収められた「梅花の歌『序文』」が典拠。これは、大宰府長官であった大伴旅人の邸宅で行われた宴で詠まれた三十二首の歌を集めたもので、ここに示された「漢文で記された序文」と「やまとことばの和歌」という構成を見て、旅人自身が「和魂漢才」の人物であったことは明らかであろう。大陸文化の「漢文」を受け入れる中にも、やまとことばの「和歌」を詠み、「大和魂」を疎かにしない旅人の強い思い

が伝わるのである。実は、御祭神菅公の母君は大伴氏の出身であり、当宮境内には伴氏社が摂社として祀られるなど、大伴氏と当宮の御縁は深い。

菅公は、この時代よりおよそ百年後の人物だが、上代より受け継がれた我国特有のこの概念を「和魂漢才」という思想で顕し、生涯を賭して実践されたのである。また菅公は、寛平年間に『新撰万葉集』を撰じられているというのも、誠に興味深い御縁である。

今回の新元号公布によって、改めて日本人が古来有する寛容な精神や美的感性が、広く内外に示された。新しい元号に込められた意が、菅公が唱えられた「和魂漢才」の精神に見事に通底したものであると、つくづく感じ入った次第である。

万葉集を始めとする古の日本文学には、梅花を主題とした歌が数多く詠まれている。上代には、梅を愛でるといふ趣が新しい文化の象徴として定着し、人々に大変好まれた。平安朝きつての文化人菅公もまた、梅をこよなく愛された一人であられたことは、世間の遍く了解するところであろう。

「令和」という新しい元号とともに始まる新帝陛下の大御代が、弥益に輝き栄えゆくとともに、梅花もその麗しき時代を彩る華として、国民一人ひとりに末永く愛され続けることを願って止まない。

己亥 初詣

「良い年に」「無病息災」「学力向上」などなど
平成最後の初詣、様々な願いを込め参拝者の列



平成では最後の初詣となった平成三十一年の正月は、三日こそ時折しくれ模様となったが、全体的には穏やかな三が日となり、境内は大勢の参拝者で溢れた。御本殿前には参拝者の長い行列ができ、参拝の人たちは、それぞれ様々な願いを御祭神に祈っていた。

新年を迎えるに当たり、三十一日午後四時から御本殿前で年越しの大祓を齋行。神社役員・崇敬者ら約七百人が、神職とともに大祓詞を奉唱し、知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを祓った。同七時から御本殿で除夜祭を齋行。同七時半からは火の御子社の御神前において鑽火祭を齋行。古式によって浄火を鑽り出し、同十時から初詣参拝者へ火縄授与を行った。

新年最初の神事である歳旦祭は、元日午前七時から御本殿において厳かに齋行。皇室の弥栄、国家の隆盛・世界平和・氏子崇敬者の健勝を祈願した。御本殿前では、家族連れや若者らが次々初詣の祈りを捧げており、社務所内の待合室は、昇殿参拝祈祷の順番を待つ人で満杯の状態が続いた。

各授与所は、お札や祈願絵馬・お守などを授かる参拝者の行列ができ、牛社・絵馬掛け所周辺も志望校を書き込んで祈願する若者らでこった返した。

表参道の両脇、境内一円は露店が軒を連ね、足を止める参拝者も多く終日混雑していた。

筆始祭 齋行



書道の神としても崇敬を集める菅公を偲び、一月二日午前九時から御本殿で、菅公御遺愛の硯などを供えして筆始祭を齋行した。書に親しむ人たちがすべての書道の上達、子どもらの学力向上を祈願し、この日から神前書き初め「天満書」を開始することを御奉告した。

伝統の「天満書」

一月二日から四日まで、絵馬所で「天満書」が行われ、初詣参拝の子どもや大人が力強く書き初めをし、書いた作品を奉納した。

「天満書」は、天神さまの御神前で書き初めをし、書道の上達・学力向上を祈る昭和二十七年以来の伝統行事。三日間で昨年を百点あまり上回る千四百六十六点の作品が奉納された。これに家庭で書かれて奉納された作品千五百六十点を加えて二千九百六十六点が今年の奉納作品となった。



神前書き初め『天満書』で書道の上達・学力向上を祈願

西廻廊と絵馬所で全作品を展示
九百四十六点が入選



「天満書」として奉納された全作品の展示が、一月十八日から二十六日まで西廻廊と絵馬所で行われ、多くの参拝者が作品に見入った。審査は展示初日の十八日、日比野実・山本悠雲・岡本藍石・竹内勢雲・万殿紳水の五先生と宮司によって行われ、九百四十六点の入選作（神前の部三百九十四点、家庭の部五百五十二点）が決まった。

入選者授賞式



入選者の授賞式は一月二十六日、御本殿に天満宮賞など特別賞に輝いた子どもやその家族が参列して執り行われた。

授賞式に先立ち奉告祭を齋行。参列した子どもたちの代表が玉串を捧げ全員が拝礼し、書道の上達・学問の向上を祈願した。この後、神職から一人ずつ賞状と記念品が手渡された。

入選者は次のみなさん。

〔神前の部〕

- ▽天満宮賞 山田壯大（せいしん幼児園年長）、平井莉世（つつじヶ丘小一年）、和田真緒（桂徳小一年）、竹岡万弥（二条城北小二年）、岡本夏凜（愛知川東小三年）、瀧村希和（大宮小四年）、亀井都愛（楽只小五年）、岡田一徹（大宮小六年）、伊藤温（静岡大教育学部附属浜松中一年）、若林菜月（修学院中二年）、齋藤璃の（亀岡市立東輝中三年）
- ▽京都新聞特別賞 辻菜奈美（西宮市立甲武中三年）
- ▽京都新聞賞 藤岡摂（青山小一年）、村上夏美（亀岡市立大井小二年）、宮出紅羅（亀岡市立曾我部小三年）、齋藤樹の（亀岡市立安詳小四年）、角重（柘野小五年）、富田莉羽（朱雀第一小六年）、新江田光希（詳徳中一年）
- ▽鳩居堂賞 田原侑芽（大阪信愛学院幼稚園年長）、森野花菜（嵯峨小一年）、橋爪孝ノ助（紫竹小二年）、梅本莉沙（三山木小三年）、樋口さくら（詳徳小四年）、古島利一（御所南小五年）、丸山優奈（越谷市立蒲生第二小六年）、野田琴末（安城市立南中二年）
- ▽金賞 栗原ちひろ（葵小一年） 始め百五十九人
- ▽銀賞 三保涼太（朱雀第八小一年） 始め二百八人

〔家庭の部〕

- ▽天満宮賞 林凜音（京都幼稚園年長）、山岡ひなた（竹田小一年）、川田真子（魁書道會一年）、平井悠一朗（安詳小三年）、仲岡牙華（向日市立第六向陽小四年）、亀井都愛（楽只小五年）、片岡璃乃（柏野小六年）、橋本梨央（園部高校附属中一年）、谷口雛（伏見中二年）、豊原奈々子（洛南中三年）
- ▽京都新聞賞 古谷佳子（上賀茂小一年）、丸橋優（大宮小二年）、宮出紅羅（亀岡市立曾我部小三年）、齋藤樹の（亀岡市立安詳小四年）、水口瑛太（唐橋小五年）、船越瑞乃（大久保小六年）、岡本心愛（洛南中一年）
- ▽鳩居堂賞 山本涼晴（大徳寺保育園年長）、塩見なな（山ノ内小二年）、小林詩（上賀茂小三年）、松並京佑（伏見住吉小四年）、岩佐春希（城西小五年）、田村璃桜（南丹市立園部第二小六年）、大石絢音（亀岡市立東輝中二年）

〔審査員の講評〕

神前書き初め「天満書」は、年頭に当たった決意を言葉に乗せて書くものだ。ことに寒風吹きすさぶ御神前での書き初めは、その覚悟を強く感

斎行された祭典・行事《1月～3月》

招福の梅の枝の縁起物

「思いのまま」、今年も人気

招福の梅の枝の縁起物「思いのまま」の授与が元旦から始まり、今年も参拝者の人気を呼んだ。

「思いのまま」は、境内神域で剪定した梅の枝に、瓢箪を取り付けた当宮ならではの授与品で、瓢箪には、菅公を偲ぶ梅花祭で御神前に供える特殊神饌の玄米が入れられ、春の訪れとともに幸せを呼んでほしいとの願いを込めたもの。五十年前の初天神で六十年ぶりに復活させたが、花瓶に挿しておけば赤や白の梅の花が咲くことから新年の縁起物として定着している。



楼門の西陣糸人形は『勸進帳』

義経・弁慶・富樫が登場

西陣つくりもの「糸人形」が、今年も元日から五日まで『勸進帳』をテーマにして楼門内側の左右に飾られ、初詣の参拝者を楽しませた。

この糸人形は、西陣織工業組合の依頼のもと、毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修により有志の方々とともに毎年テーマを替えて制作されている。昨年顔見世は、改修された南座の柿落し（かきおとし）となったが、高麗屋三代の襲名披露と重なってひと際華やかな



舞台となったため、高麗屋のお家芸の『勸進帳』をテーマにしたという。

『勸進帳』は、能の『安宅』を基に作られた歌舞伎の演目で、兄の頼朝と不和になった義経が、弁慶らとともに京から奥州に落ちる道中で安宅の関所を越える場面。心で手を合わせながら金剛杖で主の義経を打つ弁慶、その心を察して打たれる義経、主従の嘘を見破りながらも心情を察して騙されたふりをする富樫、三者三様の姿を紋紙や袋帯・金襴裂地などを使った糸人形で見事に表現し、初詣参拝者の目を引きつけていた。

そろばんはじき初め

新春恒例の「そろばんはじき初め」が一月五日、絵馬所で行われた。



じる。たとえば「謙虚」「探究」などと言った言葉が書かれていたのは、奮った心への戒めの中に願いが感じられた。例年、その年の干支を書いたものが多いが、今年「亥」「猪」の字は意外に少なかった。「亥」の字が書き慣れていない所為なのか、また猪突猛進というイメージから「猪」の字が書き初めには相応しくないと敬遠されたのかも。

「平成」と元号を書いた作品が何点もあった。新元号へ変わることへの名残のようなものがあるのだろう。激動の平成だったから、よいこともたくさんあり、来るべき年への期待・願いを込めて書かれたのかもかもしれない。

パソコンやメールの全盛であり、筆を持つ機会が少なくなっているのは残念だ。といっても、ただ書けばいいというのではなく、書は字の意味を認識して書くことが大事であり、教える側もそれを心がけて頂きたい。

「天満書」は七十年近い歴史がある。北野天満宮によって行なわれているこの素晴らしい文化が今後も長く続いていくことを願う。

小学生を中心に約三百人が参加、まず全員が昇殿参拝してそろばんの上達と学業の向上を祈願した後、絵馬所に移動した。はじき初めは、長さ五・五メートル、四百桁もある特大のソロバンを使って行われ、先生が数を読みあげると巧みな指さばきでタマをはじいた。はじき初めを終えた子どもたちは「そろばんがうまくなりますように」「勉強がよくできますように」など、それぞれの願いを絵馬に書いて奉納していた。

池坊京都支部の献華展

華道家元池坊京都支部（城野眞理子支部長）による「新春献華展」が、今年も十二月三十一日から一月二日まで神楽殿で催された。

正月の恒例であり、立花・生花・自由花によりいけられた七点の新春の香り漂う作品が展示され、参拝者の目を引きつけていた。



初雪祭を齋行

今冬になつて初めて雪景色がみられた一月十四日、一の鳥居内東側の影向松の前で初雪祭を齋行した。

毎年三冬（立冬から立春前日）までの間に初雪が降ると、菅公が影向松に降臨され歌を詠まれるという伝説に基づく神事で、御神前には菅公御遺愛の硯や筆、短冊等を供え、厳肅に祭典を執行した。



新春奉納狂言

新春奉納狂言が一月三日午後、神楽殿で開催された。猿楽会と茂山忠三郎社中の主催で、毎年この日に奉納される恒例の行事。

『末広かり』『口真似』『鬼瓦』『柑子』『附子』『伯母ケ酒』『福之神』の七番が上演され、神楽殿を囲んだ参拝者を楽しませた。



茂山忠三郎社中

梅ほころぶ初天神賑わう

初天神の一月二十五日、境内の梅がほころぶ中、終日参拝者で賑わった。

曇り空ながら、この日の京都市内の気温は最低・最高とも平年を上回り、寒中ではまずまずの日和となった。表参道を始め境内一円にはいつも通りのたくさんさんの露店が並び、参拝者呼び込む威勢のよい掛け声が飛び交った。

御本殿前や牛社の絵馬掛け所付近は、合格祈願の若者も多く、ほころび始めた梅花の下、一心に祈りを捧げる姿が見られた。



一年間の災厄祓う節分祭

追儺狂言・日本舞踊奉納・豆まき

節分の二月三日、御本殿で午前九時半から節分祭を齋行した。午後は神楽殿で伝統の北野追儺狂言と日本舞踊の奉納があり、最後は威勢よく豆まきを行って今後一年間の災厄を祓った。

京都では節分にゆかりの四社寺に参詣する「四方詣り」の習わしがあり、当宮はその締め括りを担う重要な神社として信仰を集めている。社頭では終日、災難除けのお札やお守、銀幣が授与され賑わった。

北野追儺狂言は、約七十年前に創られた当宮のオリジナル狂言で、撰社福部社の御祭神「福の神」が、京の都を荒らす鬼を追い払うという筋立て。毎年、茂山千五郎社中によって奉納されており、福の神から豆を撒かれて鬼が退散し、参拝者の笑いと拍手を誘っていた。次に上七軒歌舞舞の奉納があり、最後は狂言師や芸舞妓が、神楽殿の周囲を埋めた大勢の参拝者に「福は内!」「鬼は外!」と、威勢よく福豆を撒いた。



茂山千五郎社中



上七軒歌舞舞



豆まき

大祭春祭 併せて
天皇皇后両陛下
御結婚満六十年奉祝祭を斎行

本年の五穀豊穰を祈念する春祭を三月十五日に斎行した。春の五穀豊穰を願う祈年祭を当宮では古くより春祭と称して、厳粛に祭典を執行している。またこの祭典に併せて、天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉祝祭を斎行した。

当日は神社役員、関係者らおよそ五十人が参列し、宮司の祝詞奏上、巫女舞「紅わらべ」の奉奏が行われ、宮司はじめ参列役員が玉串を捧げた。

この日の境内は、春の暖かさに包まれて梅花がほぼ満開に咲き誇り、多くの観梅者を楽ませていた。



梅風祭を斎行

講社隆盛を祈願、八乙女が鈴舞奉納

崇敬者で組織される梅風講社（小石原満講社長）の祭典である梅風祭が、縁日の三月二十五日、御本殿に約五十人が参列し斎行された。

祭典では巫女装束を身にまとい、おすべらかしの髪に花をつけた八乙女が優雅に鈴舞を奉納した。祝詞奏上の後、講社や八乙女の代表らが玉串を捧げ、梅風講社の益々の発展と講社員の無病息災を祈願した。

祭典後、本殿前の中庭でも八乙女が舞を奉納したが、縁日・梅苑公開最終日とあって多くの参拝者が八乙女の舞を見守り、カメラを向けていた。



前列左より 大岩千乃さん 宮階愛梨さん 保田小和さん 小笠原ほの伽さん 泉 珠以さん 水谷 凜さん 横山 葵さん 久保田花音さん

北野天満宮のこれからの祭典・行事《四月～六月》



四月二十日

明 祭 (中祭式)

菅公は、昌泰四年(九〇一)藤原時平の讒言によって無実の罪を着せられ大宰府に流される身となった。その地で菅公が薨去されてから二十年後、延長元年(九二三)四月二十日、晴れて冤罪が解かれ、右大臣に復され正二位に昇進、左降の宣言が焼却された日にあたることから、その喜びを御神前に奉告する祭典を執行する。



四月十八日～二十一日

文子天満宮祭

「文子さん」「文子祭」と呼ばれて親しまれている末社文子天満宮の例祭。四月十八日(木)から二十一日(日)まで四日間に行われ、齋行する。
その由緒は、天慶五年(九四二)西ノ京に住む多治比文子という童女に「右近の馬場(現在の本社の鎮座地)に菅原大神を祀るように」との御神託があった故事により、この文子の宅跡を霊地として文子天満宮として称え祀った。



五月十七日

献 酒 祭

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、御神前に新酒を供え、良い酒ができたことに感謝するとともに酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願する祭典。
室町時代、当宮神人に麴造りの特権(北野麴座)が与えられたことから酒造関係者の崇敬が篤く、関西を中心に約六十軒あまりの酒造会社や酒造組合より日本酒の奉納がある。



四月上旬～六月下旬

修学旅行参拝

当宮は、中学生を中心とする修学旅行の合格祈願の聖地として、年々御祭神菅公の御神徳にあやからうと多くの昇殿参拝がある。五月上旬から六月下旬にかけては一番のピークを迎え、御本殿や境内一円は、連日制服姿の修学旅行生で大変賑わう。
当宮では、過去に参拝された学校に由緒や御社殿を解説したDVDを送付し、事前学習に役立ててもらっている。



多治比文子と近江国比良宮の神主、神良種（みわのよしたね）の子太郎丸という七歳の少年に御神託があり、文子・良種・北野朝日寺の僧最珍等が協力し、平安京の北西（乾）の北野の地に菅公の神霊・菅原大神をお祀りしたのが、天曆元年（九四七）六月九日であることから、この日に御本殿において祭典を行う。

宮渡祭（中祭式）

六月九日



「雷除大祭」の通称で親しまれる撰社火之御子社の例祭。火雷神を祀った火之御子社は、本社北野天満宮鎮座以前よりこの地にあり「北野の雷公」と称えられ、雷電・火難・五穀の守護として、朝廷より厚く崇敬された。当日の特別授与品として雷除のお守りやお札を授与するほか、参道には露店が並び終日賑わう。

火之御子社例祭

六月一日



正月の縁起物として新年の祝膳に欠かす事の出来ない「大福梅」の実摘み取りを当宮神職・巫女・職員らと、氏子崇敬者の奉仕により、六月中旬から約一週間がかりで行う。梅とゆかりの深い当宮には、約五十種・千五百本の梅の木があり、収穫は、例年約三トン程を見込んでおり、採取した後すぐに塩漬され、梅雨明けを待つて境内で土用干しを行う。

梅の実ちぎり

六月中旬



古代より柏の葉は御神前への供物の下に敷くために用いられ、祭事用として神聖に扱われていた。当宮でもこの日に柏の青葉に御飯を包み御神前に供えて、日々の神恩に感謝し、季節の変わり目の無病息災を祈願する。又クルミと梅水を特に供える。

青柏祭

六月十日



祭事 曆 (4月1日~6月30日)



《4月》

1日	午前10時	月首祭
3日	午前10時	神武天皇陵遙拜式
14日	午前10時	賣茶本流献茶式 煎茶賣茶本流家元 渡邊琢祥宗匠奉仕
15日	午前10時	月次祭
16日	午前10時	撰社 地主神社例祭
18日	午後2時	末社 文子天満宮神幸祭
19日		参 籠
20日	午前10時	天皇陛下御譲位御安泰祈願祭 明祭 (中祭式)
21日	午後4時	末社 文子天満宮還幸祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
29日	午前10時	昭和祭

《5月》

1日	午前10時	踐祚改元奉告祭 月首祭
5日	午前10時	児童成育祈願祭
15日	午前10時	月次祭
17日	午前11時	献酒祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
31日		参 籠

《6月》

1日	午前4時	撰社 火之御子社例祭 (雷除大祭)
	午前9時	月首祭
2日	午前10時	二條流献茶式 煎茶道二條流家元 二條雅荘宗匠奉仕
8日		参 籠
9日	午前10時	宮渡祭 (中祭式)
10日	午前10時	青柏祭
15日	午前10時	月次祭
17日	午前10時	末社 竈社例祭
24日		参 籠
25日	午前9時	御誕辰祭 (中祭式)
	午後4時	夕神饌
30日	午後4時	夏越大祓・茅の輪神事



月釜献茶 (5月1日~7月31日)



《5月》

1日	献茶祭保存会	堀内社中	(社務所)
12日	梅交會	松向會	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	多門宗粒	(社務所)
	松向軒保存会	金澤宗達	(松向軒)
26日	紫芳會	布施宗青	(松向軒)

《6月》

1日	献茶祭保存会	徳田宗忠	(社務所)
9日	梅交會	晴風會	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	平井宗紫	(社務所)
	松向軒保存会	土本宗丘	(松向軒)
23日	紫芳會	紫芳會	(松向軒)

《7月》

1日	献茶祭保存会	藪内燕庵社中	(社務所)
14日	梅交會	合同茶會	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	半床庵社中	(社務所)
	松向軒保存会	休會	(松向軒)
28日	紫芳會	新居万太	(松向軒)



六月二十五日

御誕辰祭 (中祭式)
大茅の輪くぐり

六月二十五日は菅公の御生誕の日にあたるため、御本殿にて御誕辰祭を斎行する。
菅公は、菅原是善公(文章博士)の第三子として、承和十二年(八四五)六月二十五日、京の都で生を享けられた。またこの日は「夏越大神」といわれ、酷暑の真夏をひかえ、氏子・崇敬者の健康と厄除を願い、楼門で、直径五メートルの「大茅の輪くぐり」を行う。



六月三十日

夏越の大祓

日常無意識のうちに身に付いた罪や穢れは、古くより六月と十二月の晦日に斎行する大祓式で祓い清められてきた。特に六月の大祓は、「夏越の大祓」と称し、素戔嗚尊に旅の宿を供し難儀を救った蘇民将来の故事に倣い、茅の輪をくぐり、罪や穢れ、厄災を祓う茅の輪神事を、御本殿前中庭にて斎行する。

永年のご奉仕を讃え、
元京都国立博物館学芸員稲田和彦氏、刀剣愛好家鳥居賢太郎両氏に感謝状贈呈



昨今の刀剣ブームは今や誰もが認めるところではあるが、当宮の刀剣入氣の火付け役となった重要文化財『鬼切丸別名髭切』をはじめ百振近く所蔵する当宮の刀剣の手入れや保存・展示指導に永年尽力頂いた稲田和彦氏と鳥居賢太郎氏に対し、その功績を讃え感謝状を贈呈した。

刀剣の手入れや保存の指導はもとより、ここ数年は刀剣鑑賞が熱狂的ブームを巻き起こす中、当宮では、刀剣の形(押形)を御朱印とともに参拝者に頒布する「刀剣押形」が非常に好評で、その押形制作を鳥居氏が、監修を手掛けられたのが稲田氏である。

また、感謝状贈呈にあわせ、この日両氏からは当宮所蔵『鬼切丸別名髭切』(重要文化財)の等身大の押形や、豊臣秀頼公御奉納の國広(重文)、加賀前田藩御奉納の太刀など、当宮が所蔵する多数の刀剣押形も全て奉納された。



京都産業大下出ゼミ生が文道会館で研究発表―「古儀 北野祭の復興」に向けての提言―



応仁の乱で途絶えた「古儀 北野祭」の復興に向け、多方面から研究をしてきた京都産業大学の下出祐太郎ゼミ(文化学部京都文化学科)の四回生六人が二月十五日、文道会館で一般公開の形で研究成果を発表した。

発表者は石原敦之さん、武内七虹さん、立野紗世さん、中川琴絵さん、宮崎里佳子さん、山本大地さんの六人。四年前、京都文化学科が開設され、下出教授のゼミが取り組んだテーマが、天神信仰の発祥地北野天満宮の研究で、とくにかつての勅祭「古儀 北野祭の復興」に焦点を当て多角的な研究をしてきた。

学生らは、北野祭の復興に向け活動している北野祭保存会(井上経和会長)から話を聞いたたり、当宮史料の研究をするほか、実際に瑞饋祭の祭礼にも奉仕するなどして積極的に当宮の祭礼に関わって

きた。今回の研究発表は、三月の卒業を前に、これまでの調査・研究の成果を披露するもので一般参拝者にも公開した。石原さんが『北野祭神輿の実像―復興すべき神輿とは』と題し、祇園祭の山鉦に例をとり「神輿は西陣織で飾るべき」と提言した。武内さんは、当宮と相撲の関係の復元を述べ「復興に際しては小・中学生の奉納相撲大会を開けば盛り上がる」と述べた。また、▽新たな行事の創出が必要▽子どもから変えていく必要がある、などの提言や天神さんのシボル(シボル)の「牛」に着目したり、獅子舞と絡んだ研究など、発表は多岐に及んだ。

指導した下出教授は「当初はグループワークとして始まった研究が個人研究に発展、様々な角度から北野祭復興にアプローチすることになった」と、話していた。

絵馬所でミャンマーの孤児の絵画展



今も内戦が続くミャンマーのシユエグニ孤児院に暮らす子どもたちが描いた絵画展「ミャンマーの内戦孤児―知らない国への絵手紙―」が、二月十一日から二十八日まで絵馬所で開かれた。

内戦孤児の支援活動を行っている京都北ローターアクトクラブが、子どもたちのことを広く知ってもらうために開いたもので、寺院や遊んでいる様子などを色鉛筆で描いた約八十点の作品が展示され、参拝者の目を引きつけていた。

社務所で二回目の「天神囲茶会」
「京とうふ 藤野」が開催

「京とうふ 藤野株式会社(藤野清治代表取締役)による「天神囲茶会」(十富茶席)が二月十二日、社務所で開催された。

同社は、当宮門前町に本店があり、創業五十周年を記念して茶との縁が深い当宮に折り畳み茶室を奉納された。この茶室に「天神囲」と銘打って一昨春秋、社務所大広間で披露の茶会を開いたのに続き二回目。



前回と同様に藤野社長のお茶の師匠である表千家の松本英樹宗匠が亭主となり開かれた。茶席には江戸期の禅僧が描いた渡唐天神の軸が掛けられ、また新天皇の大嘗祭が秋に行われることにちなみ、昭和天皇の大嘗祭(昭和三年)を記念して作られた巻を用いるなどの趣向も見られた。一服を楽しむ人たちに松本宗匠が「天神囲」の意味や道具類の解説も行った。

「天神囲」は、戦国時代朝鮮出兵の折、博多の津で武將が「高麗囲」と呼ぶ簡易な茶席を造って一服を楽しんだことに由来して名づけられた。

献茶祭保存会だより
献茶祭保存会初寄り



献茶祭保存会役員並びに平成三十一年明月舎月金奉仕者が一堂に会し、献茶祭保存会初寄りが一月七日午前十一時半から明月舎にて催された。宮司の年頭の挨拶の後、今年のみ金奉仕者にそれぞれ委嘱状が交付された。初寄りに先立ち社務所では献茶祭保存会役員会も開催され、予算や運営に関する案件などの話し合いが行われた。

第四回 北野天神杯
フットサルリーグ授賞式

特定非営利活動法人京都市サッカー協会（五十川繁会長）が運営する京都市少年フットサルリーグが、一月十九日、京都市左京区の宝ヶ池フットサル場で恒例の「北野天神杯フットサルリーグ」を開催した。小学校六年生（U-12）の部の八チームが総当たりで熱戦を繰り広げる本大会も今回で四回目。激戦を勝ち上がり、見事優勝を果たしたのは g a t t f u t s a l s c h o o l チーム。トロフィーと賞状、北野天満宮から記念品の授与が行われた。開催当日は天候にも恵まれ、各チームとも元気一杯グラウンドを駆け回り、一心不乱にボールを蹴る選手の姿は清々しく、若者の活気溢れる試合が繰り広げられた。



氏子講社理事の平澤あさ尾さんが献木
「孫の成長を祝い、家業繁栄を願って」



当宮の氏子講社理事としてご奉仕頂いている京都市上京区の平澤あさ尾さんが、孫の亮太ちゃん（三歳）と北野幼稚園児の名で献木され、昨年十二月十九日、御本殿で奉納奉告祭の斎行後、梅苑に植樹された。平澤さんは、明治二十五年創業の業務用酒類卸販売業、株式会社「平澤商店」の取締役を務められており、この日、息子の勇亮氏・由紀さん夫妻、孫の亮太ちゃん（三歳）の四人で来社され、神事・献木に臨まれた。平澤さんは「宮詣りを天満宮でした孫の亮太が、瑞穂祭の稚児を務めるまでに成長してくれて大変うれしい。そのお祝いと、家族の無病息災・平澤商店の益々の繁栄を願っての献木です」と話されていた。

設立十周年を記念し梅の木一株を奉納
長岡天満宮ウオーキング同好会
植樹奉告祭齋行



長岡天満宮ウオーキング同好会（会長長岡天満宮中小路宗隆名誉宮司）が、紅梅「紅小鳥」を一株奉納され、一月二十八日午後四時より御本殿で奉納奉告祭を斎行、引き続き梅苑で植樹式を行った。今回の奉納は同会創立十周年を記念しての事業で、会員七十名が参列し、会の発展と会員の無病息災を祈願した。

JR東海「そうだ、京都行こう」
さわやかウォーキング
関西のあゆみ展を絵馬所にて開催

境内の早咲きの梅もちらほら咲き始めた二月二日、絵馬所にて、JR東海「そうだ、京都行こう」さわやかウォーキング関西のあゆみ展が開催された。本企画は、平成二十三年から毎年行われてきた「さわやかウォーキング関西」のあゆみを、各コースマップ等で展示するともに、人気開催コースで訪れた北野天満宮などの名所を、「そうだ、京都行こう」キャンペーンポスターとともに紹介した展示会。今回も約千人が参加して開催されたこの「さわやかウォーキング」は、開催から累計五百万人を達成している。



映画『燃えよ剣』
監督・主演者等成功祈願に参拝

二月五日（火）東宝映画『燃えよ剣』（司馬遼太郎原作）の撮影を控え、原田真人監督、主演の岡田准一氏をはじめ鈴木亮平、山田涼介の俳優二氏、スタッフ・関係者等約百名が御本殿にて撮影安全及びヒット祈願に臨まれた。原田監督は世界的な評価も高い日本映画界を代表する巨匠であり、当宮へは『日本のいちばん長い日』、『関ヶ原』に続いて三度目の昇殿参拝。御祈禱後一同は、新選組の旗印になったと伝わる絵馬所に掲げられた『誠』の額をご覧になり、文道会館で万全なる撮影を期して会合を持たれた。映画は来年公開される。



伊勢参宮―団長は長嶋秀樹役員



受け、その後はおかげ横丁を観光した。帰りは二見興玉神社に参拝し夫婦岩を見学。実りある伊勢の旅路であった。

新年恒例行事の伊勢参宮が一月十八日に行われ、神社役員・崇敬者など四十一名が参加した。本年は神社総代である長嶋秀樹役員が参宮団長を務められ、午前七時に北野天満宮を出発。好天の中、先ず豊受大神宮を参拝し、続いて皇大神宮にて御垣内参拝と御神楽を

神若会だより

見頃の梅花の中、北野天神太鼓会が梅太鼓奉納

見頃を迎えた梅苑で、三月九日、神若会北野天神太鼓会が梅太鼓を特別奉納した。ライトアップで梅苑内の梅に釣られたおよそ八百灯のろうそくが幻想的な世界を演出する中、多くの観梅者が迫力の和太鼓に魅了された。



正式参拝された皆様（敬称略）（一月～三月）

一月 十日 (木)	(株)ヘルスウェイブ
一月 十七日 (木)	長嶋秀樹氏
一月 二十日 (日)	大阪天満宮講社連合会
一月 二十四日 (木)	和の学校・東京RC
一月 二十七日 (日)	野上八幡宮
二月 七日 (木)	愛知県神社庁額田支部
二月 九日 (土)	上七軒天神講
二月 十七日 (日)	瀬戸市・長久手市神社総代会
二月 十九日 (火)	関西医科大学耳鼻咽喉科同門会
二月 二十日 (水)	防府天満宮崇敬会
二月 二十二日 (金)	マナベル倶楽部
二月 二十三日 (土)	白山神社
二月 二十四日 (日)	京の冬の旅（全十二回）
二月 二十四日 (日)	京都ホテルオークラ季節の旅
二月 三日 (日)	マリアズベビーズソサエティ
二月 五日 (火)	池浦天満宮
二月 六日 (水)	八幡神社
二月 八日 (金)	明治神宮研修生
二月 八日 (金)	商工会議所「古の三都めぐり」
二月 二十一日 (木)	梅樹会・徳丸北野神社
二月 二十六日 (火)	京都連歌の会
三月 三日 (日)	北野天満宮神若会北野天神太鼓会
三月 三日 (日)	香川県神社庁

挙式された皆様（一月～三月）

二月 十七日 (日)	松下 道成・学美	ご夫妻
三月 二日 (土)	竹中 秀文・弥香	ご夫妻
三月 三日 (日)	林 靖大・梨沙	ご夫妻
三月 十六日 (土)	村山 泰基・加奈子	ご夫妻
三月 十六日 (土)	川岸 大将・すみれ	ご夫妻
三月 十七日 (日)	亀井 祥太郎・千春	ご夫妻
三月 二十三日 (土)	片山 洋視・紋子	ご夫妻
三月 二十四日 (日)	梅本 幸敬・真貴	ご夫妻
三月 二十八日 (木)	廣橋 武志・千織	ご夫妻

新郎新婦様、御両家の皆様

末永いご多幸をご祈念申し上げます。

天神さん

思い出写真館

今号も昭和三年春齋行の千二十五年半萬燈祭の写真の紹介で、三光門前の賑わう様子を撮影した一枚である。後ろ向きだが、マントを着て帽子をかぶる男性や子どもの服装に当時のファッションが読み取れる。

千二十五

年半萬燈祭は、大正天皇の崩御に伴い一年延期されて昭和三年四月二十二日から五月十二日までの二十一日間行われ、この年の十一月には京都で昭和天皇の即位礼が執り行われている。千二十五年半萬燈祭齋行に伴ってそれを祝う唱歌や端唄・長唄などが作られており、うち「踊唱歌」の一部を紹介する。



秋には御即位、春には北野今年しや目出度や祭歳千燈萬燈千歳に餘るその二十五も神に縁の祭歳千燈萬燈（中略）梅は香でもつ、松色でもつ京の北野は神でもつ千燈萬燈踊りや世直り踊りに北野踊りや気が立つ景気だつ千燈萬燈



北野天満宮と連歌

菅原道真公をお祀りする京都北野天満宮。毎年三月中旬、梅の咲く頃に道真公を偲んで京都連歌の会による奉納連歌張行が続けられている。

季節の変わり目なので天候が荒れる事が多い。平成十三年の道真公千百年祭の折には突如雷鳴が轟き突風で短冊が飛び散り、連歌所となった舞殿に梅の花びらと葉が吹き込んで連歌を震え上がらせた。千年の時を経て道真公の怒りが静まらないのだろうか。それとも太宰府まで梅の香を飛ばそうとしているのか。道真公の詩魂が連歌の捌きに現れたのかも知れない。

京都北野天満宮では平安末期より歌合わせや連歌の会が度々行われている。後鳥羽上皇、藤原定家による歌合わせはもとより室町時代の足利義満の千句万句興行等々、大規模な連歌会が催された。朝廷も道真公の命日の二月二十五日には鎮魂の連歌を奉納し威徳を偲んだという。

戦国時代から幕末にかけて連歌は隆盛を極めた。都はもとより日本各地で武士、町人、身分の上下を問わず老いも若きも連歌に興じていたという。四季に恵まれ山紫水明の日本ではもろびと皆詩人であり詩を愛でていたのだらう。古来より和歌は「敦島の道」、連歌は筑波の道と呼ばれている。

倭武尊が東国遠征の折、甲斐国で「新治筑波を過ぎて幾夜か寝つる」と問うと篝火を焚いていた翁が「日々並べて夜には九夜日には十日」と答えたのが始まりといわれている。

日本史の始まりと共に連歌があったと云っても過言ではなからう。室町時代連歌は黄金期を迎え、お能やお茶を凌ぐ勢いとなった。二条良基や宗祇により連歌はさらに洗練され和歌に劣らぬ日本の文芸にまで押し上げられた。

世界でも稀なる座の文芸連歌、数人から十数人が一座となって長句、短句と唱和する。月を詠み、花を詠み、旅をし恋をする。天上界、自然界、心の世界を織り交ぜ序破急をつけながら繰り広げられる壮大で厳肅な即興ドラマ。決められた時間と空間の中で描かれる詩歌による一巻の絵巻物といえるだらう。天皇から庶民までを夢中にさせた連歌も明治に入っ

て急速に廃れてしまった。近代西洋文学の流入で日本独自の座の文芸は故の世界に閉じこめられたのだ。百年余の長い眠りから覚めて、京都に連歌復興の兆しが見えたのは平成の初めだった。俳句、短歌、和歌の連衆が集まって山田孝雄著「連歌綱領」を参考に手探りの出発だった。

北野天満宮の草むらに連歌井戸が確認されたのも丁度この頃である。この井戸からくみ上げた水で墨を摺り、歌をしたためれば古の歌人と心が繋がったように思えるから不思議である。

(文)京都連歌の会 図子まり絵



連歌奉納

北野天満宮奉納梅ヶ枝連歌会
平成三十一年三月二十一日
於・北野天満宮

宗匠 光田和伸
執筆 丸山景子

宗匠 鶴崎裕雄
執筆 関本 絵

初折 表

弥崇の御代を寿ぐ和魂梅はやひむがしの風ぞかしこき

くもるこそ光受け継ぐ春なれや

おだしき海に漕ぎ出づる舟

さざ波は汀に何を残すらむ

ややや便りを運べ雁

月代は野辺のむら草つゆけさに

白菊香る宴ゆかしき

初折 裏

こと問ふも奥山なれば人もなし

語ることくに小徑つづける

つかの間の逢瀬へだつや朝時雨

しのべばうづむ火は熾るなり

うらみてもなほしたはしき身の程は

仏のみ手に安らかをがな

法の舟重き罪をも許されむ

飯のこの世にまた仮寝して

歩みあゆみあふ坂の閑越えすまし

月影に映ゆ九重の駒

桐壺は袖吹く秋の風なれや

篠のそよぎに露のいろいろ

ひもろぎは頃合ひよきに花みちて

霞む国原神よみそなへ

名残 表

弥崇の御代を寿ぐ和魂梅霞む大河渡る唐橋

初燕いづくの軒に宿るらん

長旅終へて憩ふひととき

さやけしや山の音聞くかすかにも

野辺の白露香をふくみつ

袂さへ光あふるる望月に

久しき友と語り明かさむ

名残 裏

さる後は御物遠にうち過ぐし

やまとうたなどつむぐつれづれ

あきもせで眺め眺めて手の小窓

偲び妻かな今ひとたびの

くしけづる黒髪匂ふ朝ならん

涼しき風に任すゆくすゑ

鳩の湖葦切とびかふにぎやかに

近江の君の疾き語り口

とどむるや勝を決めんと打つ手にて

かざす扇にのぞく月影

群雲もやがてさやかに消えぬらん

見ればこそあれ秋深きころ

花ゆゑにまどふもよしや老い

松の緑にのびるひこばえ

賦白何連歌

重十九 裕雄

和伸 弓子

満千子 武彦

純一 弓子

節子 武彦

博介 和行

路光 和雄

靖大 和雄

敦子 弓子

景子 裕雄

純一 武彦

路光 弓子

景子 和雄

宣行 和行

靖大 弓子

和伸 武彦

景子 和雄

純一 和行

路光 和雄

有功会員

Table listing members of the有功会員 category, including names, titles, and addresses.

特別賛助会員

Table listing members of the特別賛助会員 category, including names, titles, and addresses.

賛助会員

Table listing members of the賛助会員 category, including names, titles, and addresses.

(有) アースビルド

Table listing members of the (有) アースビルド category, including names, titles, and addresses.

(株) 材源

Table listing members of the (株) 材源 category, including names, titles, and addresses.

(株) 湯葉弥

Table listing members of the (株) 湯葉弥 category, including names, titles, and addresses.

(株) 京都総合管理

Table listing members of the (株) 京都総合管理 category, including names, titles, and addresses.

(株) アンファン

Table listing members of the (株) アンファン category, including names, titles, and addresses.

(株) 栗餅所澤屋

Table listing members of the (株) 栗餅所澤屋 category, including names, titles, and addresses.

(株) 石田大成社

Table listing members of the (株) 石田大成社 category, including names, titles, and addresses.

(株) ミリエム

Table listing members of the (株) ミリエム category, including names, titles, and addresses.

(株) アンファン

Table listing members of the (株) アンファン category, including names, titles, and addresses.

(株) 小笹紋工所

Table listing members of the (株) 小笹紋工所 category, including names, titles, and addresses.

(株) 鶴屋吉信

Table listing members of the (株) 鶴屋吉信 category, including names, titles, and addresses.

(株) 明成本社

Table listing members of the (株) 明成本社 category, including names, titles, and addresses.

篤志会員

Table listing members of the 篤志会員 category, including names, titles, and addresses.

普通会員

(株) ヤギコー 取締役会長 木村 元優子 京都市
(株) おうすの里 八木 裕美 京都市
(株) 深田商店 藤田 利明 京都市
伊達 允子 京都市
佐伯 農生 上尾市
小石原 美幸 京都市
野田 行雄 京都市
奥田 久榮 京都市
高橋 正人 四日市市
藤谷 光義 京都市
岡崎 寿子 近江八幡市
宇戸 睦雄 大坂市
大田 恵蔵 京都市
青西 千賀子 京都市
布施 明 向日市
茨木 ひろみ 向日市
西村 千賀子 京都市
八木 小幸 京都市
津田 利栄子 高岡市
若林 佐知子 京都市
小蘭井 理恵さいたま市
高橋 京子 四日市市
安東 俊喜 京都市
堺 和貴 京都市

足利染工

(株) イマムラ

(株) 岩田染工

(株) 岩根

ウエダ管工業 (株)

(株) エースインテリア

(株) 岡田紙店

(株) 岡本修美堂

京美商会 代表

(有) カジキヤ

(株) 河松商店

木都プランニング

(株) 久栄物産

(株) 桐畑商店

(有) 平八 代表取締役

(株) 京阪電気商会

弘泉堂鍼灸接骨院

井上 浩一 生駒郡
矢吹 陽子 岡山市
青木 賢一 京都市
青野 国子 京都市
赤根 誠一郎 京都市
猪奥 隆志 京都市
稲本 浩士 京都市
井上 恵夫 京都市
井上 彰 京都市
入江 清 京都市
岩田 信一 京都市

(株) 坂田基楨建築研究所
アサヒ製館(有) 代表取締役
塩谷建機 (株)
漆器はたけなか

(株) 廣島家 代表取締役
(株) 朱喜

土亀建材店
坂口 晃 大津市
佐藤 哲也 京都市
佐藤 勇治 京都市
柴田 吾一 高槻市
嶋田 昭一 鯖江市
清水 久子 京都市
菅浦 彩乃 京都市
菅浦 幸子 京都市
菅浦 マスミ 京都市
杉本 克列 京都市
杉本 達代 高島市
杉本 喜代司 高島市
杉山 拓弥 丹羽郡
関 教照 京都市
高居 義弘 京都市
高橋 能美 京都市
竹内 邦博 京都市
竹口 靖夫 京都市
橘 道彦 京都市
田中 和子 京都市
田中 貴之 京都市
田中 正治 京都市
田中 満子 京都市

(株) 鳥羽梅

(有) つなじま

丸中商店
(株) 中久商店
なかむら歯科医院
(株) ニシケン木工
(有) ノエール
(株) 野田屋
みたらし本舗 茶月
八田光商店
花園異南町内会
福島鯉 (株)

寺岸 恵美子 京都市
時政 定雄 吹田市
富永 明子 京都市
中尾 昌史 京都市
中川 勇 京都市
中 寛直 京都市
中山 武夫 京都市
長野 紘一 京都市
西澤 雅子 京都市
西田 萬起雄 京都市
西村 義和 京都市
野村 進 京都市
八田 芳和 京都市
平井 宗代 京都市
平澤 亮太 京都市

森乃福郎落語鑑賞会有志一同
(株) 井筒 代表取締役社長

阿藤 久泰 西伯郡
石田 耕三 京都市
井筒 與兵衛 京都市
稲田 和彦 京都市
井上 雅之 吹田市
内田 雅之 京都市
鶴殿 忠秋 京都市
梅辻 康弘 京都市
大隈 靖彦 京都市
奥田 美千子 京都市
奥田 充 京都市
角野 孝子 西宮市
杉 修治 京都市
竹内 清一 京都市
寺山 賢信 京都市
戸田 智久 京都市
内藤 智久 京都市
根本 峯子 京都市
比賀江 庸之 京都市
森 悦偉 京都市
森下 勝興 京都市
岩崎 優子 京都市

福森印刷所
(株) 藤林商店
(株) 松岡工務店
堀池 宏志 久世郡
本郷 和子 大津市
松村 康弘 長岡京市
松本 弘治 京都市
松本 裕一 高知市

(株) 丸寛
(有) 丸八八木商店
宮本 祐典 京都市
室谷 澄男 京都市
森 吉春 京都市
山下 展茂 京都市

(株) 山村組
(株) 山村建設 (株)
山川水産
山下 展茂 京都市
吉岡 白百合 京都市
吉積 昌江 京都市
吉田 明 京都市
吉田 宗一 京都市
吉田 俊雄 京都市
吉田 満 京都市
吉積 寛 京都市
吉積 英夫 京都市
吉積 昌治 京都市
若本 早苗 京都市
鈴木 紀夫 京都市

小松建材店
阿藤 久泰 西伯郡
石田 耕三 京都市
井筒 與兵衛 京都市
稲田 和彦 京都市
井上 雅之 吹田市
内田 雅之 京都市
鶴殿 忠秋 京都市
梅辻 康弘 京都市
大隈 靖彦 京都市
奥田 美千子 京都市
奥田 充 京都市
角野 孝子 西宮市
杉 修治 京都市
竹内 清一 京都市
寺山 賢信 京都市
戸田 智久 京都市
内藤 智久 京都市
根本 峯子 京都市
比賀江 庸之 京都市
森 悦偉 京都市
森下 勝興 京都市
岩崎 優子 京都市

福島鯉 (株)
陽徳寺

阿藤 久泰 西伯郡
石田 耕三 京都市
井筒 與兵衛 京都市
稲田 和彦 京都市
井上 雅之 吹田市
内田 雅之 京都市
鶴殿 忠秋 京都市
梅辻 康弘 京都市
大隈 靖彦 京都市
奥田 美千子 京都市
奥田 充 京都市
角野 孝子 西宮市
杉 修治 京都市
竹内 清一 京都市
寺山 賢信 京都市
戸田 智久 京都市
内藤 智久 京都市
根本 峯子 京都市
比賀江 庸之 京都市
森 悦偉 京都市
森下 勝興 京都市
岩崎 優子 京都市

阿藤 久泰 西伯郡
石田 耕三 京都市
井筒 與兵衛 京都市
稲田 和彦 京都市
井上 雅之 吹田市
内田 雅之 京都市
鶴殿 忠秋 京都市
梅辻 康弘 京都市
大隈 靖彦 京都市
奥田 美千子 京都市
奥田 充 京都市
角野 孝子 西宮市
杉 修治 京都市
竹内 清一 京都市
寺山 賢信 京都市
戸田 智久 京都市
内藤 智久 京都市
根本 峯子 京都市
比賀江 庸之 京都市
森 悦偉 京都市
森下 勝興 京都市
岩崎 優子 京都市

田舎亭 日吉屋
志野流松隠軒 家元
京都連歌の会
木村 元優子 京都市
八木 裕美 京都市
藤田 利明 京都市
伊達 允子 京都市
佐伯 農生 上尾市
小石原 美幸 京都市
野田 行雄 京都市
奥田 久榮 京都市
高橋 正人 四日市市
藤谷 光義 京都市
岡崎 寿子 近江八幡市
宇戸 睦雄 大坂市
大田 恵蔵 京都市
青西 千賀子 京都市
布施 明 向日市
茨木 ひろみ 向日市
西村 千賀子 京都市
八木 小幸 京都市
津田 利栄子 高岡市
若林 佐知子 京都市
小蘭井 理恵さいたま市
高橋 京子 四日市市
安東 俊喜 京都市
堺 和貴 京都市
眞野 信行 京都市
前田 直子 京都市
津川 尚子 札幌市
芦田 友秀 京都市
蜂谷 宗文 名古屋
中村 廣志 名張市
田村 ゆう子 京都市
石田 喬彦 東京都
大森 英治 東京都
川井 元子 京都市
岸本 綾子 京都市
黒川 宗康 宝塚市
佐藤 優美 草津市
柴田 孝一 川越市
清水 久子 京都市
田中 紀子 浜松市
野村 瑠璃子 松山市
原 宏一 魚津市
藤井 丈治 福山市
藤田 宗青 三浦郡
布施 宗青 京都市

井上 浩一 生駒郡
矢吹 陽子 岡山市
青木 賢一 京都市
青野 国子 京都市
赤根 誠一郎 京都市
猪奥 隆志 京都市
稲本 浩士 京都市
井上 恵夫 京都市
井上 彰 京都市
入江 清 京都市
岩田 信一 京都市
上田 国雄 京都市
上田 宗風 京都市
植中 宗佳 京都市
梅野 星歩 長岡京市
榎本 英和 京都市
岡田 周子 京都市
岡村 清一 京都市
岡本 寿 京都市
沖原 主志 京都市
奥須賀 良徳 大坂市
鬼塚 節子 京都市
小野 智 京都市
桂 康之 京都市
門田 賢司 京都市
木曾 光代 京都市
北川 進一 京都市
北村 進 京都市
北本 和彦 京都市
木村 光男 京都市
桐木 重夫 宇治市
桐畑 忠史 京都市
倉田 喜佐雄 京都市
小崎 文恵 京都市
越藤 光朗 京都市
後藤 勝彦 京都市
後藤 悠介 土岐市

坂口 晃 大津市
佐藤 哲也 京都市
佐藤 勇治 京都市
柴田 吾一 高槻市
嶋田 昭一 鯖江市
清水 久子 京都市
菅浦 彩乃 京都市
菅浦 幸子 京都市
菅浦 マスミ 京都市
杉本 克列 京都市
杉本 達代 高島市
杉本 喜代司 高島市
杉山 拓弥 丹羽郡
関 教照 京都市
高居 義弘 京都市
高橋 能美 京都市
竹内 邦博 京都市
竹口 靖夫 京都市
橘 道彦 京都市
田中 和子 京都市
田中 貴之 京都市
田中 正治 京都市
田中 満子 京都市
寺岸 恵美子 京都市
時政 定雄 吹田市
富永 明子 京都市
中尾 昌史 京都市
中川 勇 京都市
中 寛直 京都市
中山 武夫 京都市
長野 紘一 京都市
西澤 雅子 京都市
西田 萬起雄 京都市
西村 義和 京都市
野村 進 京都市
八田 芳和 京都市
平井 宗代 京都市
平澤 亮太 京都市

福森印刷所
(株) 藤林商店
(株) 松岡工務店
堀池 宏志 久世郡
本郷 和子 大津市
松村 康弘 長岡京市
松本 弘治 京都市
松本 裕一 高知市
宮本 祐典 京都市
室谷 澄男 京都市
森 吉春 京都市
山下 展茂 京都市
吉岡 白百合 京都市
吉積 昌江 京都市
吉田 明 京都市
吉田 宗一 京都市
吉田 俊雄 京都市
吉田 満 京都市
吉積 寛 京都市
吉積 英夫 京都市
吉積 昌治 京都市
若本 早苗 京都市
鈴木 紀夫 京都市
阿藤 久泰 西伯郡
石田 耕三 京都市
井筒 與兵衛 京都市
稲田 和彦 京都市
井上 雅之 吹田市
内田 雅之 京都市
鶴殿 忠秋 京都市
梅辻 康弘 京都市
大隈 靖彦 京都市
奥田 美千子 京都市
奥田 充 京都市
角野 孝子 西宮市
杉 修治 京都市
竹内 清一 京都市
寺山 賢信 京都市
戸田 智久 京都市
内藤 智久 京都市
根本 峯子 京都市
比賀江 庸之 京都市
森 悦偉 京都市
森下 勝興 京都市
岩崎 優子 京都市

岸田(株) 代表取締役
大久保 秀雄 宇治市
大串 靖 京都市
太田 侑馬 京都市
大野 正寛 京都市
大橋 優夫 京都市
大東 瑞恵 京都市
大室 建治 京都市
岡田 忍 京都市
奥田 聖 京都市
奥田 秀雄 京都市
奥田 茉衣 京都市
奥田 仁 京都市
奥村 明子 神戸市
桶作 登喜夫 京都市
小笹 純 神戸市
鬼崎 紀子 八千代市
小野 英子 大阪市
小野 雅也 宝塚市
垣貫 敏彦 京都市
笠井 洋志 前橋市
笠松 一久 大阪府
柏木 啓井子 淡路市
加治 優子 東京都
梶原 宏太 野洲市
梶原 悠暉 野洲市
加藤 勝廣 名古屋
加藤 敏 京都市
加藤 尚代 京都市
上内 弓子 熊本市
唐橋 義雄 大阪市
川田 綾香 高槻市
川田 暖真 高槻市
川田 真衣 高槻市
川田 慎 高槻市
川田 雅之 高槻市
川野 真由美 京都市
河端 繁美 京都市
河端 二郎 京都市
川邊 和明 長浜市
河原畑 康彦 京都市

丸善衣裳(株)
官和会
北洞(株) 代表取締役
北野 貴弘 京都市
北野 次男 京都市
北脇 康藏 京都市
紀平 勝弘 津市
木村 正二郎 京都市
木村 春美 京都市
木村 南雄 京都市
木村 大輔 京都市
草木 幸子 京都市
黒見 幸子 京都市

(有)加藤文とん店 代表取締役社長

瑞庵

アミ
(株)材榮 代表取締役
京都中央信用金庫 花園支店

(有)萬亀楼 代表取締役
桑原 光正 東京都
郡 由紀子 京都市
小西 将清 京都市
小森 康男 京都市
小山 澄也 宇治市
坂上 和子 西宮市
佐々木 隆之 相原市
佐々木 美子 犬上郡
佐藤 功 東京都
佐藤 幸子 横手市
佐藤 七枝 京都市
佐藤 利右衛門 山形市
佐野 唯天 東京都
澤田 梅子 東近江市
澤田 幸雄 東近江市
澤田 隆介 三鷹市
志賀 英和 京都市
柴田 正男 京都市
清水 富弘 相模原市
白坂 淳 京都市
城下 英行 茨木市
菅谷 来 長浜市
菅野 雄仁 京都市
杉本 彩名 名古屋
杉本 貞雄 宇治市
杉山 豊 京都市
鈴木 和美 高知市
鈴木 俊子 八王子市
曾我 幸一 京都市
曾我 富士子 京都市
高岡 廣一 京都市
高岡 幸江 京都市
高崎 雅子 京都市
高崎 昌久 京都市
高津 和子 京都市
高津 倫子 京都市
滝村 耕三 豊能郡
田口 雄二 豊中市
田口 裕希子 熊本市
竹次 豊和 京都市
竹村 和夫 京都市
竹若 栄里子 京都市
田中 潤 新座市
田中 豊 京都市
谷口 昌三 京都市
田淵 信彦 高槻市
田村 信彦 京都市
多門 宗粒 京都市
茅野 宏修 芦屋市
長田 卓也 京都市
堤 修 京都市
寺山 惠美子 京都市
寺山 竹美 新潟市

(株)日本電機商会 代表取締役社長

(株)松北園茶店 代表取締役会長

(株)高岡

グリーンガイド
弥栄織物(株)

為国印刷(株)

(株)長栄中央センター

(株)栃尾木工 代表取締役
日本ジオトラスト(株) 代表取締役
鳥松鶏肉店

中嶋クリニク

(株)京都新聞社 相談役

(株)西村幸太郎商店 取締役社長
(株)象彦 代表取締役社長

(株)のむら 代表取締役社長

花園良北町町内会
花園馬代町町内会
花登寿し
京都プライベートホテル 総支配人

(株)人見設計工務 代表取締役

アール洋品店
(有)富貴

三平餅
藤原 紀男 世羅郡
鮎留 鎌田 京都市
法所 智之 京都市
堀内 直哉 宝塚市
堀川 えつ子 八幡市
本庄 由佳 東伯郡
前田 邦次 津市
前田 利次 京都市
牧 正篤 京都市
松浦 松夫 京都市
松本 孝裕 京都市
松本 洋子 京都市
万野 温清 近江八幡市
水口 篤彦 宇治市
宮林 幸子 京都市
宮本 幸子 京都市
宗次 正晴 京都市

松川屋

KAMIX(株)
(株)ムラタ・インクス

森野機業店

和光建物総合管理(株) 代表取締役

豊しげ

(株)吉田

若林愿鴻堂

和田 智哉 京都市
渡辺 智哉 京都市
若林 明達 京都市
若林 明達 京都市
吉田 順一 京都市
吉田 耕治郎 京都市
吉田 宗美 京都市
山本 佳子 京都市
山本 安一 京都市
山本 美代子 京都市
山本 政雄 京都市
山本 信一 京都市
山本 研二 京都市
山本 孝 京都市
山田 邦晶 京都市
山田 茂 京都市
山口 二朗 京都市
山口 雅紀 京都市
山縣 雅代 京都市
山尾 玉輝 京都市
森野 博文 京都市
森野 延枝 京都市
森脇 満子 京都市
矢口 孝哉 京都市
山岡 孝哉 京都市
山岡 雅人 京都市
山岡 雅人 京都市
盛岡 敦 京都市
盛岡 敦 京都市
森岡 古乃枝 京都市
物部 展国 京都市
村橋 節子 伊丹市
村田 さつき 京都市
宗次 正晴 京都市

嘉永五年万灯会錦絵の 奉納者渡邊庄三郎

嘉永五年（一八五二）の北野天満宮万燈会を描いた錦絵は、昭和七年（一九三二）に渡邊庄三郎氏が奉納されたものであることは、以前の社報で紹介した。

この錦絵は、「五雲亭貞秀写之」と作者の名がみえ、また左下隅には「東都通油町 藤岡屋慶治郎板」と刊行者名があり、上部に表題「京都北野天満宮一萬燈會之図」がある。「五雲亭貞秀」は、歌川貞秀のことで、初代歌川国貞の門人で、本姓は橋本氏、名を謙、俗称兼次郎、玉欄斎、五雲亭を称した。文化四年（一八〇七）に生まれ、明治初年に没した。

貞秀の得意とした画は、武者絵と一覽図であり、殊に一覽図は、概ね鳥瞰図の手法で描かれ、その描写は精密であることで知られ、多くは実地踏査を基礎としたものであるとされている。

ところで、この錦絵を奉納した渡邊庄三郎とは、いかなる人物なのか。奉納された錦絵の裏面には、

昭和七年一月吉日

奉納 東京市京橋銀座西八丁目

渡邊庄三郎



京都北野天満宮一萬燈會之図

とある。名前と住所とを手がかりに探索すると、一九二五年（大正一四）に西銀座八丁目で版画店を営んだ渡邊庄三郎に行き着いた。

渡邊庄三郎は、明治十八年（一八八五）茨城県に生まれ、一歳の時、家族で東京神田に引っ越し、質屋などに奉公したあと、明治三五年、古美術商小林文七の輸出店「蓬枢閣」に勤めた。そのころ浮世絵は外国人のあいだで人気が高まっていた。

明治三十七年、歌川広重の「江戸名所貼交図絵」の古版木を用い、外国人向けの藍摺絵を摺った。これが、渡辺が錦絵の世界に踏み入れる

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

大きな契機となった。

そして明治三十九年、村田金兵衛の番頭の堤と美術骨董店の「尚美堂」を開店。翌年、堤と別れ、四十二年「渡辺版画店」を創立し、橋口五葉・伊東深水・川瀬巴水らに原画を依頼して新版画を制作した。新たな境地である「新版画」は外国人から支持を受けた。

大正十二年（一九二三）には、自著『浮世絵師一覽』を刊行し、大正十四年、奉納銘にある住所の東京西銀座八丁目に移った。奉納の前年の昭和六年、浮世絵師研究の入門書といえる『浮世絵師伝』を井上和雄と共著で刊行している。しかし、昭和三十七年に彼が死去してのちは、それを受け継ぐものもなく、新版画も衰退してしまふ。その意味で渡邊は浮世絵「最後の版元」と評されている。



楽茶碗 慶入作
利休七種のうち
明治時代



北野大茶湯 高札

同時開催

「第3期」刀剣×お茶
北野天満宮の至宝
宝物殿にて珠玉の刀剣一挙公開！
『北野のお茶文化』北野大茶湯から現代へ

青もみじ

北野天満宮
史跡御土居

天神信仰発祥の地今年も瑞々しい若葉が見頃に

2019年4月20日(土)―6月30日(日)
午前9時―午後4時(終了)

[拝観料] 大人(中学生以上) 500円 / 小人(小学生) 250円 / 修学旅行生 250円
青もみじ・宝物殿同時拝観 100円割引 ※4月26日―5月6日の期間は除く
※4月26日(金)―5月6日(月・祝)は、大人800円 / 中高生400円となります。(春期京都非公開文化財特別公開とセット券)

奉祝 天皇陛下御即位 春期京都非公開文化財特別公開
4月26日(金)―5月6日(月・祝) 午前9時―午後4時(終了)
場所：宝物殿 [拝観料] 大人800円 / 中高生400円
主催：公益財団法人 京都古文化保存協会

全国天満宮総本社 北野天満宮
北野天満宮へのお越しは市バスが便利
系統 10 50 51 55 101 102 203 北野天満宮前下車
お問い合わせ 北野天満宮社務所 075-461-0005



太刀 國広 重要文化財

奉祝 天皇陛下御即位
春期京都非公開文化財特別公開

2019年4月26日(金)―5月6日(月・祝) 9:00―16:00 (受付終了)
場所＝北野天満宮宝物殿 拝観料＝大人800円 / 中高生400円



【特別公開作品】紫紙金字金光明最勝王経巻第一 (重要文化財) 後宇多天皇宸翰 鎌倉時代

主催：公益財団法人 京都古文化保存協会

〔神社本廳辞令〕

北野天満宮権禰宜に任ずる
出仕 威徳寺 秀洗
出仕 米川 安世
(各平成三十一年四月一日付)

〔退職辞令〕

願いにより當宮賄係の職を解く
賄係 宮本 美里
(平成三十一年二月十日付)

願いにより當宮巫女の職を解く
巫女 木村 綾
事務員 陶山 茜
(各平成三十一年三月三十一日付)

〔採用辞令 (新入社員)〕

願いにより當宮事務員の職を解く
財務部長 井上 慶一
巫女 堤 菜央
(平成三十一年四月一日付)



紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、
紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、

『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



火之御子社例祭 六月一日

雷除大祭

かみなりよけたいさい

●特別授与品の頒布

雷除けのお守・お札を開門の午前五時より特別に授与致します。

このお札は、「北野千体札」と称され、古くは千体限定の授与でしたが、近年はこの日より三日間頒布します。



六月三十日午後四時

なごしのおおほらえしき

夏越の大祓式

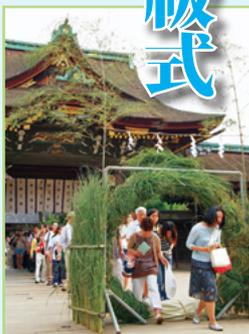
●茅の輪をくぐって、無病息災を祈願！

午後四時から神事を執り行い、神職とともに茅の輪くぐりを行います。茅の輪をくぐって、厄難を祓い落しましょう！

●人形・車形でお祓いしましょう

人形に氏名・年齢を記して三度息を吹きかけます。それを身の代わりとして大祓に差し出してお祓いします。また交通安全祈願として、車形もあわせて行いましょう。

※氏子区域の皆様には、氏子総代を通じて形代をお配りします。



どなたでも神事に参加できます。

御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ！

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿（遷都より600年の間）は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京（大内裏）
- 大極殿（室町時代迄の平安京）
- 京都御所（室町時代以降の平安京）

